特202
768

昭和十一年十月

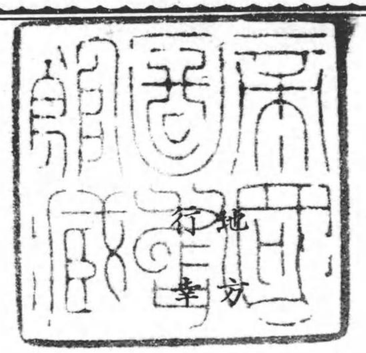
地方行幸

# 記念誌

北海道小樽市中學校

始

特202
768




昭和十一年十月

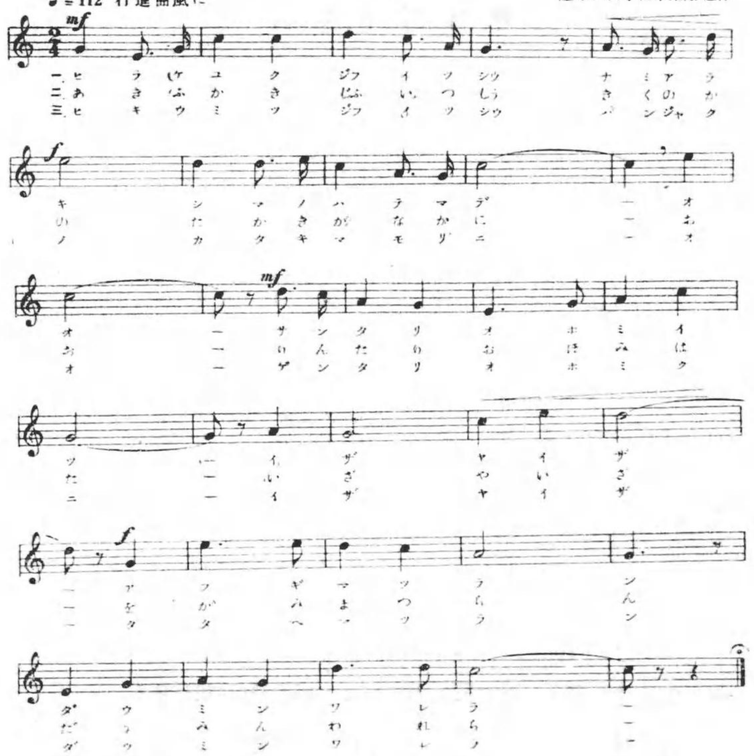
# 記念誌

北海道小樽市中學校

# 奉迎歌

♩=112 行進曲風に

陸軍戸山學校軍樂隊 謹作




## 奉迎歌

北海道廳謹撰

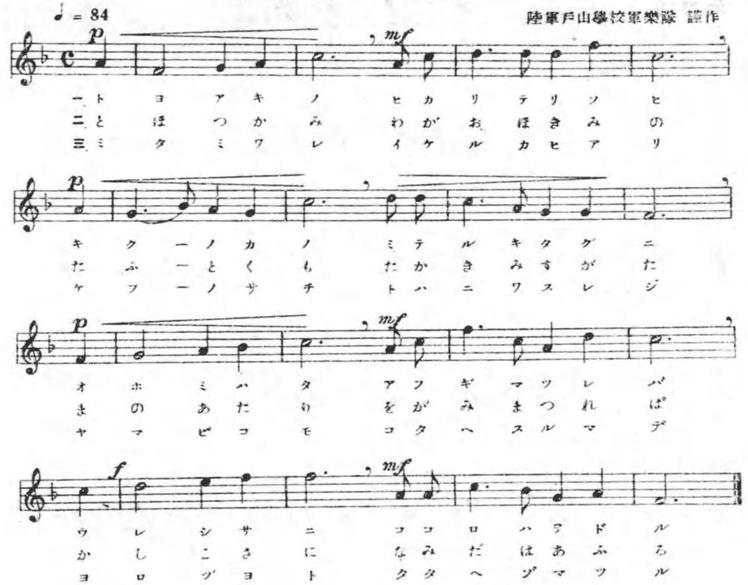
一、拓け行く十一州
波あらき島のはてまで
おゝ燦たり大御稜威
いざやいざ仰ぎまつらん
道民われら

二、秋深き十一州
菊の香の高きが中に
おゝ凛たり大御旗
いざやいざ拜みまつらん
道民われら

三、雄躰滿つ十一州
磐石の堅きまもりに
おゝ儼たり大御國
いざやいざ讃へまつらん
道民われら

## 御親閲奉唱歌

陸軍戸山學校軍樂隊　謹作




# 御親閲奉唱歌

北海道廳謹撰

一、豊秋の光照り添ひ
菊の香の満てる北國
大御旗仰ぎまつれば
嬉しさに心は躍る

二、遠つ神わが大君の
尊くも崇き御姿
眼のあたり拝みまつれば
畏さに涙は溢る

三、御民われ生ける效あり
今日の幸ことはに忘れじ
山彦も答するまで
萬歲と讃へぞまつる

## 目次


一、地方行幸並に御使御差遣日誌……（二）
二、地方行幸及御使御差遣に關する諸協議會並に職員部署分担事項……（九）
三、地方行幸及御使御差遣に關する諸儀式並に訓話感想……（一三）
1 聖旨傳達式……（一三）
2 勅使奉迎送の感想及謹話……（一三）
3 宮城遙拜式……（一五）
4 生徒感想文……（一六）
四、天覽及御使御覽成績品製作、出品、保存……（二八）
1 天覽成績品に就いて……（三〇）
イ 習字、謹作に就いて……（三一）
ロ 圖案謹作に就いて……（三二）
ハ 電燈配線模型謹作に就いて……（三三）
ニ 忍路環狀石籬謹作に就いて……（三三）
ホ 全道天覽成績品出品數及種目表……（三五）
2 御使上覽成績品に就いて……（三六）

五、衞生施設及身體檢査……（四〇）
六、御使御臨校の狀況……（四〇）
1　道廳及市との交渉日程事項並豫算、營繕事項……（四〇）
イ　交渉日程及事項……（四〇）
ロ　市への請求豫算明細書……（四三）
ハ　校費、校友會同窓會支出豫算書……（四四）
ニ　侍從御差遣に關する經費配當豫算表……（四四）
ホ　營繕に關する設備修繕……（四五）
ヘ　御使奉迎諸準備並施設經費について……（四六）
2　御使奉迎特別作業……（四六）
イ　屋内作業……（四六）
ロ　屋外作業……（五二）
3　當日の狀況並に言上書、概況書……（五四）
イ　當日の狀況……（五四）
ロ　侍從御差遣次第書……（五五）
ハ　言上書……（五六）
ニ　校務概況書……（五八）
ホ　我校の概觀目次、（奉呈寫眞帳、記念繪葉書、記念活動寫眞等の内容）……（六八）
4　理科室實驗實習設備狀況……（六九）
イ　理科研究室……（六九）
ロ　暗室……（六九）
ハ　理科器械室……（七〇）
ニ　理科實驗室……（七〇）
ホ　理科準備室……（七〇）
5　工作室實驗實習設備狀況……（七一）
イ　工作室に於ける御巡路……（七一）
ロ　各室の設備……（七一）
ハ　實習狀況……（七二）
6　博物授業計劃及狀況……（七三）
イ　計劃及狀況……（七三）
ロ　生徒氏名……（七四）
7　數學授業計劃及狀況……（七四）
イ　計劃及狀況……（七四）
ロ　生徒氏名……（七七）
8　器械體操準備訓練及狀況……（七七）

イ 準備訓練……（七七）
ロ 當日の狀況……（七九）
9 新聞社、父母等校外關係……（八一）
七、御親閲豫行部署及當日狀況……（八四）
八、觀兵式拜觀準備及當日狀況……（八七）
九、奉迎送豫行及當日狀況……（九〇）
十、行在所拜觀狀況……（九三）
イ 大本營御跡拜觀……（九三）
ロ 公會堂、高商御座所拜觀……（九四）
十一、學校長、職員拜謁並に伺候……（九四）
十二、記念施設に關する件……（九六）
イ 記念行事……（九六）
ロ 記念日……（九六）
十三、附圖……（九七）
イ 大演習陪觀者位置要圖
ロ 御親閲位置要圖
ハ 單獨拜謁者參退路圖
ニ 御使の御巡路圖

# 編纂趣旨

此の度、聖上陛下に於かせられては、陸軍特別大演習御統監のため、畏くも本道に行幸あらせられ、親しく民情の御視察をも遊ばされ給ふ。襟には明治天皇行幸あらせられ、續いて大正天皇、皇太子に渡らせらるゝ御時行啓の光榮に浴し、道民は只管感激に滿ち溢れつゝある折柄、陛下には攝政宮殿下の際にも遙々本道に行啓遊ばされ、今又道民は直接尺寸の間に龍顔を拜し奉つたので、重ね〴〵の光榮に唯感激の他はなかつた。こゝに於て道民はかく廣大無邊なる皇恩に對へ奉るべく赤誠を以て奉迎奉送し奉つたのである。又 陛下には、特に教育、産業、社會事業などの一般民情にもいとも深く大御心を垂れさせ給ひ。日々大演習の御統監の御繁忙の折柄、御寸暇もあらせられぬ御尊體にも拘らず、拓殖上に於ける本道産業、社會施設につき一々御下問あらせられる等、尚廣く民情をつぶさにしろしめす畏き思召しから、道内九十二箇所に侍從並に侍從武官を御差遣遊ばされたので、道民は再び新たなる感激に滿されたのである。本校もその千載一遇の光榮に浴し、御使奉迎送も滯りなく終了の運びに到つた。これ眞に本校の無上の光榮である。職員生徒一同は、今更ながら陛下の御仁慈厚き大御心に深く深く感激した。この尊き光榮を永遠に記念すべく茲に地方行幸記念誌を編纂し、以て聖恩の万一に期せんとする次第である。

# 一、地方行幸御使御差遣日誌

昭和十一年二月二十五日、陸軍特別大演習に關し十月一日より六日間本道石狩の野に於て實施、天皇陛下御統裁の趣、陸軍省より正式に發表あり、其後九月二十二日、天皇陛下には大演習前後十有餘日の長きに亘り畏れ多くも道内三十餘箇所に行幸遊ばされ具に地方開拓の狀況竝に地方の民情を觀せられ、更に畏き思召に依り九十二箇所に御使を御差遣遊ばされる旨正式に仰せ出されたのである。三百万道民は聖慮の優渥に感激して赤誠を披瀝し、聖駕奉迎の準備萬端を整へ以て皇恩の万一に對へ奉らんと決心したのであつた。

本校に於て本格的に聖駕奉迎並に御親閲及天覽成績品、御使御覽成績品謹作について準備を開始したのは六月廿六日職員打合會よりであつた。卽ち先づ天覽成績品謹作につき各科に於て出品種目を立案し教務部に於て其の樣式の統制をとり、各科職員之を指導することを決定した。

七月三日及十日
職員打合會に於ては御親閲參加者、觀兵式拜觀者調、錦旗奉迎諸注意事項、天覽成績品製作等の諸件について具體的打合をなした。

七月十七日
曩に開催された全道中等學校長會議に於ける御親閲及天覽成績品製作方並に大演習及觀兵式拜觀に關し道廳よりの注意及指示につき學校長より示達說明があり基礎的準備の諸件を打合せた。

七月二十三日
天覽成績品に關する市役所よりの通達事項に關し打合をなした。

七月二十四日
國旗降下式に際し學校長より生徒に對し休暇中の諸注意を與へ、特に今秋聖駕奉迎の光榮に浴するを以て素行を愼むべき旨



訓示があり、式後全校生徒中より學業、素行及び健康につき愼重に考慮の上選ばれた天覽成績品謹作生徒を校長室に集め學校長より心身を淨め一意奉公の至誠を以て作品製作に精進すべき旨訓示があつた。

斯くて休暇に入るや、曩に研究立案せる謹作題目により習字、圖書、工作、理化、地歷、博物各科につき指導職員と共に十七名の生徒は全力を盡して謹作に精進し八月廿日諸作の完成を遂げた。

八月二十一日
石栗、山内兩教諭は完成せる天覽成績品を携へ旭川市の指定審査場たる日新、商業、中學の三校に搬入し奉つた。

八月二十八日
御親閲隊形練習に關し打合をなし、全職員協力指導監督に當ることを決定し、翌廿九日放課後約一時間半に亘り第一回の豫行演習を實施した。

九月一日
畏くも十月五日本校に御使御差遣の内命に接したので、本日午前七時四十五分全職員校長室に參集、學校長より内示あり聖恩の優渥なるに感泣、一同粉骨以て聖旨に對へ奉らんことを覺悟したのであつた。

放課後市役所に提出すべき御使御差遣に關する次第計劃書について部長會議をなした。

九月二日
聖駕奉迎、御親閲、御使御差遣に關する特別行事職員部署を決定した。

本日市役所川内秘書主任下檢分の爲來校された。

九月三日
御使奉迎に關する經費豫算書作製をなした。放課後御親閲拜受豫行。

九月四日
第七時限御親閲拜受豫行。

九月五日

御使御差遣に關する奉呈書所見、御覽授業、同成績品準備計劃、校内外營繕事項等を打合せた。御親閲拜受豫行は今後毎週一回實施の旨決定以後之を實施した。

九　月　七　日

本日より放課後各學年別に特別作業を實施して御使奉迎に關し校内外の整備に努力した。市營繕課長營繕事項調査の爲來校された。

九　月　八　日

侍從御差遣次第書作製道廳に提出した。

九　月　十　一　日

御親閲訓練、觀兵式陪觀、聖駕奉送迎、御使御迎諸準備に關し細密なる打合をなした。

九　月　十　四　日

御使御差遣の趣新聞紙に發表あり、右につき學級主任より生徒に心得方を傳へた。放課後御使奉迎準備につき特別時間割編制、特別作業、御使御覽成績品製作に關する諸件を打合せた。

九　月　十　五　日

第四時限第一回奉迎歌練習をなし、第五時限御親閲拜受豫行午後三時より花園公園に於ける市合同豫行演習に參加した。

九　月　十　六　日

本日より特別臨時作業班を編制し、特別作業實施に入る。學校長には御使御差遣事務打合の爲道廳に出張した。

九　月　十　七　日

御使奉迎に關する留意事項、營繕及展覽製作品並に諸整備に關する豫算決定の件を打合せた。

九　月　十　八　日

御使御差遣に關する記念寫眞撮影願を提出した。

九　月　廿　日



花園公園に於ける全市御親閲豫行に參加した。

九　月　廿　一　日

第五時限奉迎歌練習。

九　月　廿　四　日

聖上陛下午前八時宮城御發輦横須賀軍港より御召艦比叡に便乘遊ばされ愈々本道に大纛を進め給ふ。よつて全校講堂に參集遙拜をなし海路の御安泰を祈り奉り、兼ねて御使御差遣の聖旨傳達式を行ひ、學校長より聖恩に對へ奉る覺悟に關し訓話をなし、且つ生徒父兄に對し御使御差遣の聖旨拜受の光榮を傳達して喜びを分つた。又住吉神社に執行せられた　聖駕御安泰祈願祭に本校代表として五年級長吉井宗光、道場七郎の兩君を參列せしめた。

九　月　廿　五　日

御使奉迎豫行の爲道廳鈴木觸導官、板谷市長一行御來校、檢分並に豫行を施行された。

九　月　廿　六　日

聖上陛下御召艦比叡にて鵬程恙なく室蘭港に着御、本道御上陸の第一歩を印し給ふ。依つて朝禮時生徒に謹達した。

學校長旭川師範學校天覽、體操陪觀の爲出張。

九　月　廿　八　日

朝講堂に於て學校長より聖上陛下奉迎並に天覽體操陪觀の光榮感激について謹話があつた。

九　月　廿　九　日

十八日願出の記念寫眞撮影箇所指定許可があつた。

九　月　卅　日

御使御覽授業豫行二年原教諭理科、四年平田教諭數學を實施した。本日小樽警察署より檢分に來校。

十　月　一　日

室蘭、旭川、釧路、根室、帶廣等の地方行幸を終らせ給ふた　聖上陛下には本日愈々札幌大本營に着御遊された。全校講堂

に參集　聖上陛下奉迎式を擧行した。又教護分團委員へ御使奉迎方通知狀を發送した。

十　月　二　日

學校長、天機奉伺の爲札幌大本營に伺候、御使奉迎に關し植田校醫より職員生徒一同身體檢査を受けた。

十　月　三　日

第四時限御使御覽體操豫行、各御巡覽室準備完了、奉呈書類完成、學校長巡視をなし、光榮の日を御待ちするばかりとなつた。

十　月　四　日

大暴風雨、自然の暴威の爲、滿一ヶ月に亘る職員生徒の心血を注いだ努力も一朝にして無慘に破碎し去られた。正門道路に楚々たる秋色を漂はせて未だ散りやらで勅使を迎へ奉らんとしてゐた萩の吹きちぎられた慘しい姿、百花妍を競へる花壇の荒廢、さてはポプラ、アカシヤ等の庭樹の倒折、或は校舍屋根の五十餘坪の飛散、窓ガラス數十百枚の破損、講堂に陳列せる職員生徒彫心鏤骨の研究品、製作品の雨に汚損された姿、明日に迫る御使奉迎を思ひ茫然長歎禁ずる能はざるものがあつた。併し召集せる學級委員と職員一同勇を鼓し、市當局の御配慮を得て應急修理を加へ、復舊を完成することを得た。

十　月　五　日

今日こそ待ちに待つた御使奉迎の日である。昨日の荒天も名殘なくをさまり、秋光天に滿ち、淸凉溢るゝ日であつた。早朝準備を完了し、夫々部署に就き、全校及父母教護分團委員諸氏正門前に堵列御着を御待ちした。午前九時四十分御使甘露寺侍從には、隨員靑木宮內屬、嚮導官鈴木道廳地方商工主事、係員關道廳屬、板谷小樽市長、鹽谷市秘書課長、川內市秘書主任、小樽警察署員等を隨行せられて御着、職員生徒、父母委員の奉迎に答へられつゝ御機嫌麗しく御入校御視察を賜り、午前十時三十分玄關前にて記念御撮影の後、全校奉送裡に御退校遊された。奉送を終つて一同校內に入り、運動場にて聖旨傳達式擧行後、御使御正室及御巡覽各室並に成績品展覽室を各學年別に巡覽し今日の悅びを祝ふ記念御菓子を分與した。

十　月　六　日

輝く大觀兵式陪觀の光榮を擔つた一、二年生徒五十一名、學校長及沼田、有海、內堀の三教諭に引率され前夜出發、本日午



後七時五十三分無上の感激に浸つて歸る。學校長には本日大本營に伺候して侍從御差遣の御禮言上をなした。

十　月　七　日

道廳主催全市合同聖駕奉迎豫行に參加、午前八時三十分淺草寺前集合、廳商前所定位置につき嚴肅なる豫行をなした。

十　月　八　日

御親閲拜受、第三、四、五學年生徒二二七名、學校長及石栗、新井、山內、渡邊(喜)、渡邊(啓)の五教諭に引率され、午前一時三十分校庭集合、武裝を整へ、同二時十分勇躍札幌に向ひ、二回の合同豫行を終へ、午後一時より　聖上陛下の大御前に堂々四万五千の北海道健兒、莊嚴なる分列式を行ひ御親閲を拜受し、生涯の光榮に浴し、九日午前二時十分歸校した。

十　月　九　日

聖駕奉送迎、全校午前七時半淺草寺前集合、八時廳立商業學校前に整列、聖駕を御待した。十時二十分御召列車小樽驛着御港に碇泊せる御召艦比叡よりの殷々たる禮砲、紺碧の秋空に轟き渡るや、十五万の全市は深山の靜けさにかへる。やがて十時四十八分略式自動車函簿にて肅々と高商に行幸遊ばし給ふ　聖上陛下を奉迎申上ぐ。龍顏麗しくわれ等民草に仁慈の會釋を賜ふ。森嚴の中にも和照の感あり、御民われら生けるしるしありしの思ひを深くした。十一時十八分高商御發輦、製罐會社に行幸遊されるを奉送申上げ、市內を旗行列を行ひつゝ潮見臺高臺に至り、午後二時三十分の御出港を奉送申上げた。御召艦比叡が燦然たる錦旗を秋風に靡かせ、鏡の如き紺靑の石狩灣を靜かに出でますや、臺上一万の若人感極まつて一齊に國旗を打振り奉唱歌を高らかに合唱し萬歲を唱へ、夕映ゆる煙波の彼方に、艦影の沒せんとするまで立ちつくし奉送申上げ海路の御安泰を祈り奉つた。

此の日公會堂行在所に於て、學校長及石栗、新井、山內の三教諭には列立拜閲の光榮に浴した。

十　月　十　日

第一、二時限　聖駕奉迎感想文を生徒に謹書せしめた。午後公會堂行在所、及高商御座所拜觀に全校出向した。

十　月　十　一　日

職員生徒有志札幌大本營跡拜觀に赴いた。

十月十二日
本日は二旬に亘る地方行幸を恙く終らせ給ふた　聖上陛下の御歸京の日である。第一時限全校講堂に參集して遙拜式を擧行し、海路の御安泰を祈願し奉つた。
天覽成績品の御下渡を受ける爲石栗、鈴木、兩教諭旭川市へ出張した。
十月十五、十六日
御下渡を受けた天覽成績品を講堂に陳列して生徒に拜觀せしめた。
十月卅一日
第五時限體操祭を行ひ併せて御使御覽器械體操を公開した。
十一月廿一日
第一時限今次の地方行幸並に御使御差遣の光榮を記念すべき校風發揚上最も意義ある施設に關する所見を職員及生徒に徵した。
十一月廿七日
地方行幸御使御差遣記念事業立案に關し打合をなし、記念品保存については教務部、校風發揚施設に關しては訓育部具體案作製のことに決定した。尙ほ新井教諭より道廳に於て　聖旨奉體式に關する報告があつた。
十二月十二、三日
兩日第二學期父母會に際し天覽成績品並に御使御覽成績品を展覽して、父母の觀覽を乞ひ、且つ勅使御差遣狀況活動寫眞謹作完成せるを以て、之を映寫觀覽せしめ多大の感動を與へた。又本日御使言上本校教育施設要錄並に記念繪ハガキを父母に頒布して、深く光榮を記念すると共に、本校教育の施設現況に關し一層父母各位の理解協力を得、生徒教養に資する所あらんことを期した。
十二月十八日
地方行幸誌編纂方分擔を決定し、本月廿八日迄に各分擔者、分擔事項を完了し、提出することゝなり、各々編纂及整理に



着手した。

## 二、地方行幸及御使御差遣に關する諸協議會並に職員部署分擔事項

地方行幸に關する諸協議事項
六月二十六日（金曜日）
一、天覽成績品の中、鄕土教育資料出品方の件
道廳より左の件につき出品方要求により、本校に於ては左記項目につき各科より夫々攻究の上定案を出し、結局理科よりの「本校に於ける日蝕觀測」の研究品を提出することに決定。

（枚ノ内第　號）
天覽成績品ノ中
鄕土教育資料出品方（　科）　提出期日二十九日（月）迄
一、題　目（例　本道教育ノ發展、泥炭地ニ於ケル植物分布）
二、品　目（圖表、寫眞、模型、標本、實物等）
三、點　數
四、順　位（出品順位）
五、内容概說（各品目ニ亘ル說明）
六、經　費（製作蒐集等費用）
七、大サ
八、出品者（職員單獨又ハ共同出品、學校出品、生徒共同參加ノ有無）

二、夏季教育施設企劃方に關し關係事項
天覽出品製作は教務部に於て其樣式を統制し之が指導に就き必要に應じて職員の部署を設けること。

七月三日（金曜日）

一、御親閲に關する件

1　御親閲に許可せられる者は、第三學年以上の者にして身體强健思想健實なる者である。其の數は總數の八割となす。

2　御親閲期日迄の訓練に對しては學級主任は特に留意すること。

七月十日（金曜日）

一、錦旗奉迎に方り戒慎留意に關する徹底方の件

左記要綱の印刷物を職員に配布して、その徹底方につき協議をなす。

錦旗奉迎ニ方リ戒慎留意スベキ要綱

一、敬神尊皇ノ信念ヲ固クシ烈々タル忠誠ノ至情ヲ顯現スヘシ。

一、人ノ和ヲ第一トシ上下一體協力一致シテ事ニ當ルヘシ。

假令分擔外ノ事ナリト雖モ必要ナリト認メタル事項ハ直ニ關係方面ニ連絡スル等機宜ノ處置ヲ執リ徒ニ管掌事項ニ拘泥シテ間隙ヲ生スルカ如キコトナキヲ期スヘシ。

一、自己ノ分擔事務ニ關シテハ須ラク責任ヲ以テ之ニ當リ精勵努力光耀アル大任ノ遂行ヲ期スヘシ。

一、周密ナル計畫ヲ樹テ之ニ基キテ事務ノ進捗ヲ圖ルヘシ。

偶發事項ニ對シテモ徒ニ周章スルコトナク機ニ臨ミ變ニ應スルノ餘裕アルヲ要ス。

一、質實ヲ旨トシ華美ヲ避ケ諸事節約ニ從ヒ冗費ヲ省クヘシ。

一、恒ニ細心ニシテ冷靜沈着ナル態度ヲ持スルト共ニ事務ノ處理ハ正確敏速ヲ旨トスヘシ。

一、健康ニ留意シ恒ニ潑剌タル志氣ヲ藏シテ事ニ當ルヘシ。

一、禮節ヲ重ンシ外部トノ連絡協調ニ努メ人ニ接スルニ懇切ヲ旨トスヘシ。

二、生徒製作天覽出品に關する件



書方、圖畫は市内各中等學校の打合により決定をなすこと。

七月十七日（金曜日）

一、長官訓示の主旨徹底方に關する件

左記全道中等學校長會議要領の印刷物を職員に配布し、長官訓示の主旨徹底方につき協議をなす。

全道中等學校長會議要領　（昭和十一年七月）

道廳長官訓示

（前略）今秋聖駕ヲ奉迎シ奉ルニ當リ畏クモ御親閲並ニ學藝成績品ノ天覽ヲ賜フ宜シク烈タル奉公ノ至誠ヲ披瀝シ一層教育報國ノ念ヲ新ニシ教學刷新ノ實ヲ擧ゲラレタシ（後略）

御親閲及天覽成績品ニ關スル注意及指示

一、御親閲拜受方ニ關スル件

御親閲拜受ニ關シテハ周到ナル計畫ヲ樹テ生徒ヲシテ統制アル儀容ト旺盛ナル意氣トヲ以テ稜威ヲ奉拜セシメ愈忠誠ノ至情ヲ捧ゲ以テ献身奉公ノ大義ヲ效サシメンコトニ努メラレタシ。尚奉唱歌募集ニ對シテハ多數應募スル樣取計ハレタシ。

二、鐵道輸送及休止ニ關スル件

乘車、下車ノ時刻ハ鐵道輸送力ノ關係上多クノ希望ニ副ヒ難カルベキコトアルヲ以テ集合歸還ノ不自由ヲ忍ビ各校統制ヲ保タレタシ。

休止ノ場所ハ主トシテ學校ヲ充ツ各自相當ノ防寒用意ヲ爲スノ外公德ヲ重ンジ靜肅ヲ保テ火氣及衞生ニ萬全ノ注意ヲ拂ハレタシ。

三、給養及救護ニ關スル件

宿泊者以外ノ食事ハ必ズ自給ノ方途ヲ講ズベク給水給湯ハ現存設備ヲ利用スル程度ナレバ不自由ヲ忍ビ節度ヲ保

タレタシ。

休止場、集合所、式場等ニハ救護所及救護班ヲ設置スル豫定ナルモ各團體ニ於テ豫メ救護係ヲ設ケ萬遺漏ナキヲ期セラレタシ。

四、天覽成績品製作ノ方針及一般注意

方針

1 恭敬以テ細心ノ注意ヲ拂ヒ心身ヲ謹メ謹作スルコト。

2 本道ノ現況及鄕土色ヲ表明スルニ努メ各其創意ヲ發揮スルコト。

3 質實ヲ旨トシ特ニ多額ノ經費ヲ投ジ華美ニ流ルヽカ如キコトナキ樣留意スルコト。

一般注意

1 出品生徒ハ人物性行共ニ善良ニシテ身體强健タルコト。校醫檢診ノ上出品ニ際シ文書ニ其旨記載スルコト。

2 多數生徒ニ製作セシメタルモノヽ中ヨリ各學年ニ亘リ選定シ同一學年ニ偏セサルコト。

3 出品成績品ハ汚損ノコトナキ樣適當ナル方法ヲ講シ搬入スルコト。

4 出品成績品ノ內一部ハ教育參考品トシテ保管スルヲ以テ返還ヲ要スル向ハ其旨文書ニ附記スルコト。返還ハ終了後期日ヲ定メ會場地ニ於テ引渡ス

5 說明書ハ口語崇敬體（片假名）トシ特ニ愼密ヲ期スルコト。

五、天覽品ノ蒐集ニ關スル件

1 成績品ノ出品ニ關シテハ七月二十日前後ニ文書ヲ以テ照會ス。

2 習字用紙ハ大サ富士新ケント八七キロトス。半切希望者ハ前項ノ際文書ニ記載シ天覽成績品係ニ申出ツルコト。

3 研究調査物ハ可成圖表、標本、寫眞ヲ以テシ册子ニ依ルモノハ避クルコト。

4 蒐集指定期日內ハナルベク速ニ搬入スルコト。搬入場所ハ習字ハ旭山商業、圖畫手工ハ旭川中學、研究調査



物ハ日新小學校トス。

六、天覽品審査ニ關スル件

1 出品成績品ハ濫リニ手ヲ觸レシメサルハ勿論之カ保管ニ付テハ些ノ遺漏ナキヲ期スルコト。

2 審査ノ選ニ入ラサルモノハ展覽終了迄嚴重ニ之ヲ保管シ終了後ニ返還ス。各校ニ於テハ記念製作品トシテ展覽會ヲ催ス等適當ノ方法ヲ講スルコト。

3 審査ニ當リテハ特ニ愼重ヲ期スルハ勿論審査ノ經過ニ付テハ一切嚴秘ニ附スルコト。

七、觀兵式陪觀及大演習拜觀ノ件

場所及鐵道輸送ノ關係上全部ノ希望ヲ容レ難キコトアルヲ以テ豫メ承知シ置クコト。

觀兵式當日ハ大體午前五時迄ニ入場整列ヲ了スル見込ナリ。

七月二十三日（木曜日）

一、市內外の生徒風紀に關する件

市外の生徒風紀に關しての監督は訓育部員之に當り、市內各分園係教師がその各分擔區域內を巡視して、校風に遺憾なからしめる樣に特に留意すること。

七月二十六日（日曜日）

一、天覽製作出品者に關する件

天覽製作出品者にして性行上遺憾なる者ありや再調査をなすこと。

八月二十八日（金曜日）

一、御親閱の隊形練習の件

1 第一、第二學年は不動の姿勢練習、第三學年以上は分列隊形の練習をなすこと。

2 服裝の注意徹底を計ること。

3 參加者の異動有無の調査をなすこと。

4　參加者にして缺席せる者の調査をなすこと。

九月一日（火曜日）

一、御使御差遣に關する件

九月五日（土曜日）

一、奉呈學事要覽に關する件

二、御使御差遣に關する準備の件

職員の部署を定めて速にその準備をなすこと。（後末にその部署記す）

三、御使御覽成績品に關する件

四、御使御差遣に關する營繕の件

營繕に關する費用は九月七日（月曜日）に決定すること。

五、受閲練習の件

受閲の練習は毎週一回行ふこと。

六、市主催受閲練習の件

市主催受閲の練習は九月十五日、二十日、十月四日の三日間の豫定。

七、御使御差遣に關する購入品の件

1　御使御差遣に關する費用の中、至急購入を要するものは、速に紙面にて學校長に提出許可を受け進行すること。

2　購入品は豫め教頭を經て事務部長に申出ること。

九月十一日（金曜日）

一、特別行事に關する件

1　講堂を展覽室に使用すること。

2　雨天の場合の計劃は書面に表さぬこと。



3　五年乙組の教室を以て英語、國漢の兩用の教室と定め、その準備をなし置くこと。

4　侍從御差遣の公式發表の際は講堂に於て、その傳達式を行ひ、尚家庭にその通知をなし、一層生徒に激勵を促すこと。

5　特別時間割の編成により、第五、第六時限には、清掃、御使御覽授業の練習、御覽成績品の製作に當ること。

二、特別行事に關する物品購入に關する件

物品購入の際は用紙に記載の上學校長の許可を得ること。尚購入品の會計は事務部にて統制を計ること。

三、御親閲訓練に關する職員部署の件

職員の部署を定めて訓練の徹底を計り、其の實を擧げること。（職員部署は後末に記す）

四、御親閲を受くる職員生徒の輸送方及び指導監督に關する件

列車内の輸送については豫め練習をなし置き、指導監督に遺漏なき樣に努めること。

五、御親閲の練習に關する件

御親閲參加者につき再調査をなし遺憾なき樣に努めること。

六、奉迎送の敬禮並に奉拜の位置に關する件

右については專ら訓育部長之に當り統制を計ること。

七、觀兵式の陪觀者に關する件

1　陪觀者人員の本校定員は生徒五十一名（第一、第二學年より選拔す）引率職員は三名と決定。

2　陪觀者は思想健實、身體强健にして長時間の行動に堪へ得る者なること。

3　陪觀生徒の選拔は記名投票により第一、第二學年の各組より十二名選擧すること。

九月十四日（月曜日）

一、御使御差遣に關する件

二、特別時間割一部變更の件

三、御使御覽成績品製作の件

九月十七日（木曜日）

一、侍從御迎に關する留意事項の件

各々職員は己の部署の任務に十分自重の上遺憾なく遂行するやう左記印刷物により一層その徹底方を期すること。

侍從御迎ニ關スル留意事項

一、伺　候　者

1　石栗教諭ハ正室外ニ位置シ各係要務ノ連絡、進行ニ當ルコト。

2　新井教諭ハ宿直室前ニ位置シ各室接待ノ進行ニ留意シ左記要務ニ當ルコト。

イ　教務概況書ヲ御出發ノ時マテニ隨行ノ道廳係員ヲ經テ差出スコト。

ロ　御使御出發ノ時ハ直ニ次ノ差遣個所ニ電話ヲ以テ通報スルコト。

ハ　御差遣又ハ途中ニテ事故アリタル場合ハ嚮導官ノ指圖ヲ受ケ電話又ハ電報ヲ以テ總務部長其他關係方面ニ通報スルコト。

3　由内教諭ハ石栗教諭ヲ補佐シ特ニ御巡路及時間調節ニ留意スルコト。

右ニ就キ各室説明要品配置及職員生徒ノ位置圖ヲ用意スルコト。

二、庶　務　係

必要ニ應シ事務室又ハ宿直室ニ位置シ女關ノ取締ニ當リ左記ニ留意スルコト。

1　使丁ヲ適宜個所ニ配置シ警備ニ當ラシムルコト。

2　御車通路及附近居住者拜觀方ニ就キ豫メ警察署ト打合セ遺憾ナカラシムルコト。

3　正室ニハ一切額ヲ掲ゲヌコトヽシ副室ノ外更ニ校長室地元出向者ノ爲メ控室ヲ設クルコト。

4　茶器ハ清洗シタル後熱湯ヲ注キ布巾ハ清潔ナルモノヲ用フルコト。

5　菓子類ハ新鮮ナルモノヲ供シ餡物類ヲ避ケ果物類ハ清洗シタル後アルコールニテ拭クコト。

6　生徒給仕人ハ豫メ健康診斷ヲ受ケシメ給仕前石鹸ヲ用ヒ手指ヲ充分洗淨スルコト。



三、奉　呈　書　係

1　說明書及校務概況書ノ内容ハ豫メ市ト打合スルコト。概目ハ凡ソ左ノ例ニ準スルコト。

位置、沿革大要、職員、學級及生徒、教育方針、教育施設、卒業生

2　文體ハ文語片假名ヲ可トシ用紙ハ美濃白紙又ハ罫紙ニ淨書シ別ニ表紙ヲ附スルコト。

3　奉呈書寫一通ヲ總務部長宛提出スルコト

4　女關前撮影ニハ御使ノ御椅子ヲ用意シ、參列者位置ヲ新井教諭ト打合セ置クコト。

5　新聞社ノ撮影申出ニ就テハ市ト打合セ指示シ撮影ニハマグネシユームヲ使用セシメヌコト。

四、學習及成績品係

1　成績品ノ陳列ハ由内教諭統制ノ下ニ各料打合セ圖畫作業科職員協力スルコト。

2　授業教師ノ服裝ハ禮服トシ體操科ニアリテハ便宜ノ服裝ニテ可ナリ。

3　授業ハ進行ノ途中臨場トナル筈（體操ハ臨場後開始）入退場ノ際教師下座シ合圖ニヨリ生徒一同最敬禮ヲナスコト。

五、巡覽整備係

1　國旗ハ校門ニ所定ノ方式ニテ揭揚シ、御巡覽通路ノ裝飾ハ統制アラシムルコト。

2　理科、圖工各室設備、プール、實習園ノ說明概要ヲ豫メ學校長ニ差出スコト。

3　學校附近ノ清潔衞生ニ就テハ市ト連絡シ遺憾ナカラシムルコト。

4　建物内外清潔衞生ニ充分留意シ便所下水ハ良ク掃除スルコト。

5　室内ハ換氣ヲ充分ニシ乾燥ヲ圖ルコト。

6　御通路各室柱、敷居並ニ戸ノ引手、机椅子ハ御使到着前「アルコール」又ハ滅菌水ニテ拭クコト。

六、生徒訓練係

1　當日街路上拜觀者ノ整理ニ留意シ秩序ヲ保タシムルコト。

2　父兄委員參列者ノ誘導ハ豫メ注意シ遲滯無ク且秩序ヲ保タシメ特ニ敬禮方ニ留意スルコト。

二、營繕及び製作品並に整備に關する豫算決定の件

三、特別作業に關する件

御使御差遣の準備に關する作業時間は二時間とし、終了後は一齊解散をなさしめること。

十月十五日（金曜日）

一、行事豫定變更の件の中關係事項

二十四日は天覽品を講堂に陳列し、職員生徒に展覽せしめること。

十一月二十日（金曜日）

一、地方行幸並に御使御差遣に關する記念事業の件

1　明朝教室にて記念事業に關する適當なる施設につき生徒をして所見を具體的に書かしめること。

2　右記載せられたる用紙は趣旨に適ひたるものを前にして綴り提出すること。

十一月二十七日（金曜日）

一、記念品保存の件

天覽品の特設せる戸棚に入れて丁重に永く保存すること。

二、特別記念事業施設の件

訓育部を中心として各部各學科職員と連絡を計り、その施設につき努力すること。

三、父母會開催準備の件中關係事項

天覽品又は御使御覽の成績品並に實況映畫は父母の觀覽に供すること。

十二月十八日（金曜日）

一、地方行幸記念誌編纂方分擔の件（分擔任務は後末に明記す）



1　各分擔係の原稿は十二月二十八日迄に事務部に提出すること。

2　整理編纂は冬期休業中になすこと。

## 地方行幸に關する部署分擔印刷物

聖駕奉迎ニ關スル特別行事職員部署（昭和十一年九月）

（イ）御親閲ニ關スル訓練及要務

一、生徒訓練　阿部大尉　渡邊教諭心得　各級主任

二、鐵道輸送及休止　石栗教諭　山内教諭

三、服裝及救護　新井教諭　渡邊教諭

（ロ）御使御差遣に關する諸準備

一、總務係　學校長補助、各係連絡　石栗教諭

二、庶務係　正室及隨員控室　沼田教諭　山田書記

茶菓及御接待　同　水野書記心得

調度及營繕　同　同

三、奉呈書係　沿革及現況言上書、學事要覽　高岡教諭　杉本教諭

付寫眞圖面　藤原(惠)教諭　鈴木教諭

淨書　山田書記

四、學習及成績品係　山内教諭　各科職員

研究成績品　山内教諭

博物學習及設備　原教諭（鶴木囑託）

數學科學習及設備　平田教諭（渡邊教諭）
國語科　同　中里教諭（杉本教諭）
英語科　同　新井教諭（有海教諭）
體操科演習及設備　藤原教諭（八尾囑託）

五、巡覽整備係

理科各室整理通路　石栗教諭
圖工各室整頓　原　教諭　藤原教諭　櫻田助手
プール及體操場整理　鈴木教諭　鶴木囑託
校園及屋外一般整頓美化（校長室、事務室、應接室、理科廊下）　藤原教諭　八尾囑託
女關及屋內一般廊下通路整理裝飾衛生　原　教諭　鶴木囑託

六、生徒訓練係

實習室各教室清拭、衛生　平田教諭　鈴木教諭
敬虔指導　沼田教諭　山田書記　水野書記心得
團體行動及禮式訓練　松本教諭　內堀教諭
校內外規律及服裝　新井教諭　各職員
（八）奉迎送ニ關スル團體訓練　新井教諭　阿部大尉　渡邊教諭心得
（ニ）大演習拜觀　中里教諭　內堀教諭　有海教諭
（ホ）茶菓御接待生徒　（正室）池一秋、棟徹郎、橋本清一、（副室）藤井佳民、信野愼一、新谷敬二郎　阿部大尉　藤原教諭　渡邊教諭心得



御親閲訓練ニ關スル部署

一、整列　御

二、臨

| 喇叭及奏樂係 | |
|---|---|
| 平田教諭 | 一、鹵簿ノ先驅入場ノ時「氣ヲ付ケ」喇叭ヲ吹奏<br>二、玉座ニ着御アラセラルル時「君ガ代」一回終ル如ク奏樂<br>三、玉座ニ上ラレタル時喇叭一聲ヲ吹奏<br>四、捧銃ノ號令ニテ「君ガ代」一回ヲ奏樂 |
| 有海　藤原（勇）教諭 | |

三、分列ノ爲ノ行動

| 生徒指導係 | | |
|---|---|---|
| 敬禮 | 頭ノ向ケ方（四十五度）垂直ニ注意 | |
| 間隔　距離　分重　復解 | 內堀教諭　鶴木囑託 | 一、整列ノ間隔左手ヲ腰ニ正シク擧クルコト、各列ノ距離ハ八十五糎<br>二、右向シタル時及行進中ノ距離ハ軸心距離一米三〇<br>三、右ニ向イタ時奇數ハ偶數ノ右ニ出ル、左ニ向イタ時ハ奇數ガ偶數ノ左ニ出ル、二度左ニ向イタ時ハ偶數ガ奇數ノ右ニ出ル |
| 步度　步幅 | 藤原（惠）教諭 | 一步ノ幅ハ七十五糎トシ一分間ニ百十四步ナルコト |
| 銃ノ位置　踏付及手振方 | 沼田教諭　松本教諭　中里教諭　杉本教諭 | 傾度三十度左右正シキコト<br>一、行進中手首ガ肩ノ高サマテ振リ肱ヲ曲ケサルコト<br>二、足ノ擧方ハ股ガ水平ニナルマテ擧ケ强ク踏付ケル |

四、奉唱歌奉唱（女子中等學校）

五、君ガ代奉唱（一回）奉唱歌ノ終リタル時軍樂長ノ指揮ニ依リ第一節ヲ前奏ス（此ノ間奉唱セス、次ニ全員一回合唱ス）

六、萬歲三唱　北海道廳官發壁全員萬歲、執銃者及持物アルモノハ片手ヲ擧ケ唱和ス

七、還　御

| 喇叭及奏樂係 | |
|---|---|
| 平田教諭 | 一、萬歳三唱後喇叭一聲ヲ吹奏 |
| 有海藤原(勇)教諭 | 二、敬禮ノ時君ガ代一回奏樂<br>三、鹵簿發御ト共ニ君ガ代一回奏樂<br>四、還御後「休メ」ヲ吹奏 |

地方行幸記念誌編纂方分擔

一、日誌（諸準備、行事、事後處置）――杉本
二、諸協議會及職員部署――沼田
三、諸儀式並ニ訓話、感想――中里
四、天覽及御使御覽成績品製作、出品、保存――山内、各科
五、衞生施設及身體檢査――藤原（勇）
六、御使御臨校ノ狀況
　1　道廳及市トノ交渉及豫算、營繕――山田
　2　御使奉迎特別作業――平田、鶴木
　3　當日狀況並ニ言上書、概況書――高岡
　4　理科及工作室實驗實習設備狀況――藤原(勇)、鈴木
　5　博物及數學授業計劃及狀況――原、平田
　6　器械體操準備訓練及狀況――藤原(惠)、八尾
　7　新聞社、父母等校外關係――高岡
七、觀兵式拜觀準備及當日狀況――有海、内堀
八、御親閲豫行、部署及當日狀況――新井、渡邊(啓)
九、奉迎送豫行及當日狀況――中里、渡邊(啓)



十、行在所拜觀狀況――藤原(惠)、松本、渡邊(喜)
十一、學校長、職員拜謁並ニ伺候――石栗
十二、記念施設（記念室、記念行事、記念日）――石栗、新井、山内
十三、整理、編纂――沼田、水野、櫻田

## 三、地方行幸及御使御差遣に關する諸儀式並に訓話感想

### 1　聖旨傳達式

九月二十四日は　聖上陛下宮城御發輦の日である。曩に本年度大演習地を「北海道」と勅裁あらせらるゝや、朝野三百萬の道民の歡喜は如何ばかりであつたらう。去る明治十四年、明治大帝の錦旗をお迎へしてより正に五十五年目、私達は再び今上陛下の御巡幸を仰ぐ幸運に際會したのである。

特に本校は豫て畏き邊りより侍從御差遣の内命を戴いてゐる。教育に對する御軫念の厚く且つ切なる、只々感佩極みである。不朽の光榮を迎へんとする私達はこゝに新たなる覺悟を要するのである。

午前八時、職員生徒講堂に參集、宮城御遙拜。行幸御安泰祈願。それより聖旨傳達式を行つた。

學校長より廣大無邊なる御聖旨の程を傳達するや、全校五百の職員生徒は今更に皇恩の有難さに咽びつゝ、粉骨碎身、以つて聖慮にお對へせねばならぬことを固く心に誓つたのである。皇運の彌榮を祈ると共に此の際特に眞劍なる力を喚び起し清き純なるこの心を磨き上げ　陛下の赤子としての本分を充分に盡さねばならぬと覺悟したのである。

### 2　勅使奉迎送の感想及謹話

十月五日、此の日こそ本校が御使御差遣といふ無上の光榮に浴した感激の日である。昨日の荒天に引きかへて如何に美しく晴れ渡つた空であつたらう。御道筋は未だ乾かず、泥濘あり、水溜りがあつたけれど、秋天いよ〳〵冴えて、萬象又一轉天高く翔ける鳥、地低く躍る獸、すべて秋色を樂しむかの如き清き陽光に對しては人の心も自らに澄み行くのを感ずる。玄關前の萩の植込みは痛ましくも昨日の雨と風に荒されて、莖は折れ、葉は散つて無慘な姿を呈してゐる。秋こそ誇れと培ひ育てた其の效もなく、花も蕾も其のまゝに地上にたゝきつけられて仕舞つた。屋根板は剝がれて飛び、窓硝子の破片は廊下に散亂して、折角丹精の美化清掃も臺無しの光景を呈した。しかし職員生徒總出動の活動によつて、間もなく校舍内外は忽ちに整理され、今や御使を待つばかりになつた。

午前九時、一同校門前道路の左側に、五年生を先頭に堵列して時の來るのを待つた。九時四十分、道廳囑導官の車を先導にして勅使甘露寺侍從の御車は緊張し切つた整列の前を擧手の御答禮をなされつゝ靜かに校門内に入られた。御巡視御順調にと祈りつゝ時の過ぐるのを待つ。そして反對側に堵列を變へ、午前十時三十分の御歸還を奉送申上げたのである。目送の御身が遠く色内川べりを下りて、やがて長橋小學校の邊、屈曲に姿を消すや、今迄の緊張が解けて、自らに湧き出るのは感激の涙である。

幸ひにも本校に職を奉じて育英の業にあたる私達はこの千載一遇ともいふべき光輝ある日を迎へることが出來たのであるを顧みれば本校は創立日猶淺く、擧ぐべくして未だ擧らず、創むべくして未だ創めざる幾多の施設經營が殘されてゐる事であらう。積極的な本校の改善は猶今後にある。私達の任は重くして且つ遠いと言はねばならない。冀くは鞠躬盡瘁、教育本來の針路を誤る事なく、各自其の職を守り、責を全うして、本校の使命發揚に邁進し　陛下奬學の御聖旨に副ひ奉らんことを期せねばならない。教育の實績は教育者其の人に俟つこと勿論である。苟くも實效を他日に期せんとする、徒らな机上の空論は避けて、學を練り、德を磨き、眞に教育報國の熱誠を以つて、誠實事に膺り、孳々生徒を淬勵して、必ずや有終の美果を收めんことを念願せねばならない。

午前十一時、職員、父兄、生徒、屋内運動場に集合。勅使よりの有難き御思召の數々につき學校長より左の謹話あり。一同、聖恩の優渥に感泣し、益々奉公献身の意を固め、和氣靄々裡に解散した。



## 學校長の謹話

天皇陛下此度本道に六師を御統監遊ばされ、四方に巡狩し仁風を四表に暢べ皇祖皇宗の宏謨を恢弘し遺業を紹述し給ふに當り、辱くも本校亦侍從御差遣の恩命に浴し、聖慮の程洵に感激恐懼措く能はざるものがあります。

颱風一過して一碧萬里秋光燦たる本日職員生徒父兄一同齋戒沐浴して勅使を奉迎申上げ私からは謹んで校務概況を言上奉り、校内外の設備を御案内申し又平田教諭の四年生の數學、原教諭の二年生の理科、藤原教諭の各學年混成器械體操、鈴木教諭の工作等の學習指導の實際や生徒の研究、製作品等の台覽を仰ぐことを得ました。此の千載一遇の光榮に浴しましたことは獨り本校の名譽であるばかりでなく小樽市の光榮であらねばならぬと思ひます。洵に文教御奬勵の優渥なる聖旨に對しましては一同唯々感泣の外はないのであります。昨日の荒天で心を罩めた職員生徒の努力も慘憺たる程荒され、校内外は荒涼たる有樣を呈しまして洵に恐懼に堪へませんでしたが、市當局の御配慮、職員生徒の努力によつて應急修理を加へ無事勅使を奉迎申上げることが出來ましたのは何よりの喜びであります。と共に教學に携はる者の責務の重且大なるを思はずにはゐられないのであります。私共は時局に鑑み冀くは駑鈍を竭し、日夜淬勵協心戮力益々教學の振興に孜め、德を成し、學を研き忠君愛國の至誠を致して鴻恩の萬一に對へ奉らねばならぬと深く覺悟する次第であります。

## 3　宮城遙拜式

十月十二日、午前八時より、講堂に於て遙拜式を行ふ。約二旬に亘る長き地方行幸の御日程を果され、本日正午御歸京遊ばさるゝ筈である。

顧へば　陛下には、朔北、北見、根室の果てまでも玉歩を進めさせられ、或は暴風强雨の中をもお厭ひなく御日程を進められ給ふ大御心の有難さ、幸ひにも御恙なく、今や御歸京の御英姿を仰ぐことを得たのである。而かも　陛下には御歸京後御休養のお暇もあらせられず、月末、廣島縣下に行はせられる觀艦式に御臨御遊ばさるゝとの事である。旰衣宵食をそのま

丶に御實行遊ばさる丶御仁德に對して我等何を以つてか對へ奉らん、申すも畏き極みである。

## 4 生徒感想文（其ノ一）

九月二十六日　聖上陛下御恙なく本道最初の御上陸地室蘭港に着御あらせらる。室蘭市民の歡聲朴舞又如何ばかりぞ。今日は又數日來稀に見る快晴、雲霧れ風收りて、誠に天皇日和とも申すべき日和で。ある吉日トに協ひ顯氣滿天に爽やかに、道民の喜びをこめて、室蘭埠頭は正に萬歳の坩堝と化したことであらう。

朝禮時學校長より謹話あり、つゞいて第一時限四、五年生をして各自の感想を謹記せしめた。その中數十幾篇は更に淸書せしめて御使御差遣日講堂に陳列して展覽に供することゝした。

### 錦旗奉迎の秋（昭和十一年九月　第五學年　山田博謹記）

先に本道に於て陸軍特別大演習が施行せらるゝことに決定せられるや、全道民は非常なる感激に燃え、爾來數ヶ月、各部に亘つて着々とその準備を進め、今や殆んどその完成を見るに至り、ひたすら　聖駕の御來道をお待ち申上ぐることの出來るに至つたのは、本道として道民の一人として、誠に懌びに堪へないものがある。

抑々特別大演習なるものは、事軍に關するものではあるが、之が國家的にも重要なる意義あることを、我々は忘れることは出來ない、此の行が普通の演習と異るところは、畏くも　大元帥陛下御親ら國軍の練成を遊ばされると共に、統帥權の確立意義を明かにせらるることである。明治二十五年秋中ば、第一回の特別大演習を宇都宮の地に創始せられてより本秋の行を加へて實に三十四回、殊に明治三十四年以來は、日露戰役、關東大震災の年を除いては、たゞの一年も缺かされ給はず、如何に政務御多端の折と雖も廢せられない御精勵に對し奉り、我等は深く體するところが無くてはならない。

「天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス」と明定せられた憲法、又軍人に賜りたる勅諭に「我カ國ノ軍隊ハ世々ノ天皇ノ統率シ給フトコロニソアル」と宣せらるるところを平時に於て如實に示し給ふ大御心、拜察申すだに畏き極みと申さねばならない。

茲に我等道民として、又御親閲拜受部隊の一員として如何なる覺悟あるべきであらうか。



畏くも明治、大正兩天皇にあらせられては、櫛風沐雨にも御厭ひなく親しく御親裁あらせられ、近くは　今上陛下又祖考の御遺風を御繼承あらせられ、長時に亘らせられる野外統監部に、はたまた、兩軍の作戰の御親裁に何ら御厭ひの御樣子も拜せられず、ひたすら御精勵あらせられ、又時には、御風氣の折にもめげ給はず、雨中の演習に臨ませらるることすらありと洩れ承る。誠に恐懼の限りである。依つて我等大演習の一端に參加する生徒として、御馬前に於て練武することを、無上の榮譽として感泣し、其の日頃の腕前を天覽に供し奉り、以て叡慮を安め奉らんとする、眞劍にして無垢な、赤き心が先づ第一の必要事であらう。

されば金鞍白馬に跨らせ給ふ、神々しくも雄々しき御英姿に咫尺し奉るのとき、

「朕ハ汝等軍人ノ大元帥ナルソ」の生きた御諭示に、軍人ならざる、我等生徒と雖も、誰か、「我は陛下の赤子なり」の感涙に咽ばぬ者があらうぞ誰か死を鴻毛の輕きに比する忠節を心に誓はざる者があらうや。

かゝる意味に於て、此の一大盛事が目近に迫り來つたのを衷心より懌ぶと共に、更に眞劍なる心構への必要を痛感する次第である。

## 生徒感想文（其の二）

十月十日、第一時限、昨日　聖駕奉送迎を終へ感激新たなるの折、全校生徒をして其の所感を謹書せしめた。此の度の地方行幸が若き青少年の心に如何に大きな感銘を齎らしたかは今更言を要しない。總計四百六十一篇、其の內容を表示すれば

| | | | |
|---|---|---|---|
| 無限の感激を覺ゆ | 八十六人 | 大御心に副ひ奉らん | 七十三人 |
| 壯嚴の氣にうたる | 五十八人 | 日本人たるの幸福に感激 | 四十八人 |
| 君國の爲めに盡さん | 四十六人 | 現神たるの神威にうたる | 二十七人 |
| 寸暇なき御精勵に感激 | 二十一人 | 義は君臣、情は父子の感 | 二十一人 |
| 敎育、民業御奬勵の聖旨に感激 | 十九人 | 無上の光榮歡喜を覺ゆ | 十八人 |
| 忠君愛國の發揚を期す | 八人 | 國體の尊嚴を感得 | 六人 |

天皇は現つ神との感　五人
亡母に奉拜の榮を與へたし　一人
一奉拜婦人の態度に感激　一人
忠孝一致を感得　二人
警官の献身的活動に感ず　一人
以上

## 四、天覽及御使御覽成績品製作、出品、保存

### 1　天覽成績品に就いて

曩に聖駕畏くも本道に行幸あらせるゝや、親しく錦旗を山間僻邑にまで進ませ給ひて、具さに道内開拓進展の狀況を御視察遊ばさるゝと共に、深く國民教育に注がせ給ふ御軫念よりして三回に渡り十有餘万の青年子女學校を御親閲あらせらるゝ傍ら、全道小中學生、青年學校生徒及び教職員の成績品研究調査物を徴されて、旭川師範及び十勝農業の二箇所に於て天覽を賜はつたのである。本校又之等の光榮に浴することを得たことは我等の深く感激する所である。かねて天覽品謹作方に就いては道廳より達示があり、六月廿四日その出品豫定表の提出を命ぜられたので、本校は愼重に打合せを重ねて、各科に於ける謹作品の題目及び謹作者を夫々その學業操行及び健康狀態を考慮したる上決定した。謹作者の健康狀態に就いては學醫の檢診を受けてその診斷書を九月十二日係宛に提出したのである。七月廿四日第一學期終業式後、是等生徒に對しては學校長より訓辭を與へ、物理教室に謹作室を設備したる上、七月三日達示の天覽成績品出品要項並に審査方針に關する事項に準據して、各科夫々謹作計劃及び其日割を定めて午後休暇に入るや、ひたすらその調査資料の整理、製作に精進したのであつた。八月十三日には市役所に於て天覽品の審査に關し市内關係筋の打合せが行はれた。

左はその成績品及び謹作生徒の氏名並に其指導に當られた諸先生である。

一、習　字　（藤原惠先生）　（二點）　二年　高橋千歳
三年　丸田廣之



二、圖　畫　（鈴木先生）　（二點）
本道植物圖案　三年　棟　徹夫
小樽風景（油繪）　五年　關根　武男
三、工　作　（鈴木先生、藤原勇先生）（三點）
ヒユッテ模型　二年　山谷　進　二年　加我　清藏
壁　鏡　三年　本郷　良雄
電燈配線模型　二年　澁井健次郎　二年　小山　道義
四、理　化　（藤原勇先生）（二點）
本校ニ於ケル日蝕觀測並ニ研究　五年　笠島　市郎　五年　小川　詳一
望遠鏡寫眞　四年　角田　厚三　四年　中山　章
五、地　歴　（松本先生）（一點）
忍路環狀石籬模型及寫眞　三年　吉能　久吉　三年　橋本　信一　四年　黑田　登　五年　關根　武男
六、博　物　（原　先生）（一點）
植物生態並花粉寫眞　三年　吉能　久吉　三年　池　一秋

斯くて休暇全期間に亘る是等諸君の粒々苦心努力の結果八月廿日深更に及んで諸作の完成を見たるを以て、八月十五日示達の天覽品搬入に關する指示に從つて、翌廿一日石栗、山内兩教諭は旭川の日新小學校、旭川商業學校、旭川中學校の三箇所に夫々搬入し奉つた。

其等諸校に於ては特別當直に當る不寢番の監護を附して、各地成績品の集合を見たる上、審査官の嚴正なる審査に通過したるものゝみ　陛下旭川に行幸あらせられし日、旭川師範に於て天覽の榮譽を擔つたのである。前記本校謹作品中よりは、

一、習　字　三年　丸田　廣之

二、木道植物圖案　三年　棟　徹夫
三、電燈配線模型　二年　澁井健次郎　同　小山　道義
四、忍路環狀石籬模型並に寫眞　三年　吉能　久吉　同　橋本　信一　四年　黑田　登　五年　關根　武男

の四點がこの光榮を賜はることに選び出されたのである。茲に無上の光榮に身の幸を感佩するものは、深く　聖恩の無窮に對へる覺悟を一入新たにすべきであらう。

其後之等天覽品は其現場に於て一般に拜觀を差許されたる後、御下げ渡しありたるを以て、本校は十月十五、十六日の兩日講堂に之を展列して全校生徒の拜觀を許し、又十二月十二、十三兩日の父母會に於て一般父母の拜觀を求めたのである。

**イ　習字謹作に就いて**

七月一日天覽品作製に關する打合せを行つてから習字擔當の藤原教諭は生徒の習字天覽作品の方法等に於ける左の事項につき熟慮研究をなす。

一、書の內容意味

有名な故人の教訓を選擇することに致し、これを沼田教諭並に杉本教諭に依囑して定めることにした。其の代表的なものとして

一、國亂而殉身易、世治而棄身難　（佐藤一齊）
一、以春風接人以秋霜自肅　（　同　）

の二句を擧げて練習させた。

一、謹書生徒

品行方正なる人物を選ぶことにして、四年佐々木松平、三年丸田廣之、二年野村正男、二年高橋千歳の四名は特に指導を嚴にした。

一、書　體

國亂……の方を楷書で丸田廣之及佐々木松平、以春……の方を行書體で野村正男、高橋千歳に練習させた。



一、用　紙

普通改良半紙と規定されてゐるので、濤仙紙に書くのより練習も容易と思ひ半紙に練習させた。

一、謹書室及用具

謹書室は應接室を當て習字のみの部屋とした。テーブルに清潔な白布をかけ筆墨其他は總て新品及清潔なものを整へ、身を淸めて敬虔な精神を以つて練習させた。

大體以上のやうな諸準備であつたが、八月十八日、十九日は最後の謹書であつたので誠心誠意眞心をこめて書くことにして上手下手などの氣持を一切捨てさせた。

一校二點の出品であるので右四名の生徒中更に嚴選して三年丸田廣之、二年高橋千歳の作品を謹送することに決定して、八月二十一日に他の製作品と同時に石票、山內兩教諭により謹送した。

圖らずも三年丸田廣之の作品が入選、天覽に供し奉り得た事は只に本人の榮譽であるばかりでなく、本校永遠の光榮として今後增々斯道の研鑽に精進する覺悟である。

**ロ　圖案謹作に就いて**

鄕土圖案として出品せる第三學年生棟徹夫作の道產植物圖案は幸にも天覽の光榮に浴し誠に感激極りなき次第である。今其の濤圖、構成、効果、用具等に就いて少しく話して見よう。

鄕土的のものとして最も親しみある且つ容易に圖案化の出來る甜菜、りんご、アカシヤを其の題材とし、四つ切大の濤用紙（規定の大きさ）を縱に用ひ上部に圖案文字を右より左に、而して約八糎の間を持つ三本の帶を等間隔に濤面に滿たし、上段帶に甜菜、中段にりんご、下段にアカシヤの順にその模樣化を配置したるものである。何れも規則的二方連續模樣にして水彩色具を用ひ一部に霧吹器を使用してゐる。

今上段の甜菜圖案を見るに、明るい黃色に赤を霧吹器にてほのかに吹きつけてゐる。地色は綠の葉の力强い模樣化と共に强烈な大陸的雰圍氣を醸し出し、其の白き根を潑溂と生かしてゐる。大根と大根との間を連絡づける爲の細く柔かい葉の曲線と、斜に規則的に並べて直線は全體の調和をよく保たせてゐる。

又中段のりんご圖案を見るとき、緣の地色に、くつきりと浮出た、りんごの赤は、之等の連絡調和を保たしめてゐる立木畠の畦等により、ひきしめられ、すがすがしい秋の空氣、道産りんご特有の芳香を偲ばせてゐる。

最下段のアカシヤ圖案は、上から綠色の枝を垂直に下し、其の左右に小さき楕圓形を對照させ、アカシヤの持つ近代的な葉の形態をよく表現し、其の枝と枝との中間に下る乳白色の花は、快い褐色の地色と共によく道産植物の氣特をつかんでゐる

尙平行線間に整頓された手ぎれいな圖案文字「どうさん、しよくぶつづあん」の大きさ形は、水々しく、よく圖案と共に調和してゐる。

## ハ　電燈配線模型謹作に就いて

七月二十四日、揭示板に今秋本道に於て陸軍特別大演習を行はせらるゝに當り、天覽に供せらるゝ作品の製作者の氏名と放課後集合せよとの旨が、白狼鮮かに書き出されてあつた。二年生小山道義、澁井健次郎の兩名は理工部委員として製作することになり、その指導者は藤原勇敎諭が擔當することゝなつた。

寂と靜まり返つて物音一つしない學校内は深山のやうである。時折囀る小鳥の聲のみが靜寂の中に聞える。俄然此の靜けさを破る「カーン」「カーン」と云ふ槌の音、走り廻る足音などが聞えて來た。多分工作室からだらう。見ると兩名は上衣をぬいで一生懸命汗を流して板を倒つてゐた。このやうにして毎日晝前迄は天覽品の模型製作に從事した。毎日少しづゝ造へて行くので一度失敗すれば二度と作れると言ふわけにいかない。何しろ一生懸命であつた。外形が出來上つたのでよく見ると、隙があるので、大きな釘を打つて塞いだ。それでどうにか形だけは整つたが、どうもうまくない所があつた。それは緣側の所だけに木を切り拔いて内を見えるやうにしたが、立關の口をしめたまゝで組立てゝしまつたことである。開けて置けばなほ家らしくなつたのにと思つた。さて組立が終つて、もう一つ他に發電所から需要先の家に電流を送る說明圖を書く事になつてゐた。それは小山道義君が專ら製作にとりかゝつた。それから先の配線模型に色を塗ることにした。何回となく塗り、電線についた色を拭き取り電柱を立て出來上つたのは、夏休みの終り近くであつた。このやうにして二人の生徒は休暇中は殆ど學校に通ひつめた。雨のしとゞと降る夏休も將に終りを告げようとしてゐる或日の夕、嬉しさうに語りながら



二人は下校した。一ヶ月に亘る藤原敎諭の懇切なる指導と注意によつて、漸く完成の域に達したのである。外觀の美こそなけれ、然し生徒の丹精を込めた作品である。圖らずも天覽に供せらるゝ名譽を得たるは何たる光榮ぞや。これ偏に鴻恩の賜と深く〳〵心に銘し、敎師生徒一同只管感激に咽ぶ次第である。

## ニ　忍路環狀石籬模型謹作に就いて

一、撰定の事情

1　環狀石籬は我が小樽市の西方約十二米、忍路村字土場ノ澤に在つて、去る大正十一年七月攝政宮殿下行啓の砌、小樽區では之が遺蹟の調査を試み、忍路村有志、同青年會の助力を得て、各所に散在せし石材を、舊位置に復舊せしめた歷史を持つて居ること。

2　亞細亞大陸方面の民族の遺蹟と考へられ、本道の鄕土史上特異なる遺蹟たること。

二、製作者學年氏名と其の分掌

第五學年　關根　武男　　第四學年　黑田　登　　第三學年　橋本　信一

右三名は主として、模型の製作に當る。

第三學年　吉能　久吉

右者は主として、寫眞の撮影に當る。

三、製作の經過

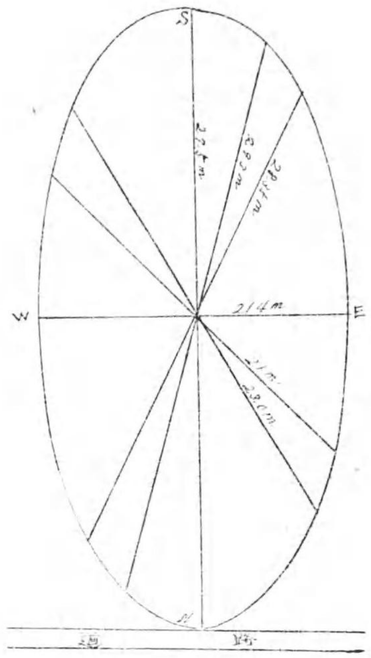
1　七月二十八日までに、製作の計劃及び材料の整備、箱の製作を完成した。

2　七月三十日、係生徒一同實地踏査し、寫眞撮影及び石の高さ、幅、周圍の長さを測り、一個宛、丁寧に模寫をなす。

又1/60の圖面作製に從事す。（方眼紙に記入す）

終日を費して、其の正確さに綿密なる注意と努力を拂ふ。

卷尺一、物指二、磁石二個持參す。




3　製作品特別室に閉ぢ籠り、專ら連日に亘つて謹製に從事す。

先づ四十二オンスのボール紙を六枚重ねて、台地を造り、其の表面に圖面を寫し、百五個の石を、一々其の形、高さ、幅を$\frac{1}{60}$に縮尺して、全く其の眞物と一分一厘さへも違はざる樣丹念に、メンダインを以て附着させ、小石は又之に應じて之を列べ、中央には糊を塗つた上に土砂を撒布し、草地は枯草の染色（萠葱色）し細分せるものを撒布附着せしめる等、最初の計劃に比べて、其の細部に至つては、次々に考へながら謹作するの狀況であつた。

4　樹木の内アカシヤは鄙蹟の枯枝に、染色せる眞綿をかけ、松、櫻は二十七番線の針金を寄せ集めて枝を作り、葉を振り附けて造つた。

5　畑、電柱を建て、最後の修正をなす。八月二十日完成提出す。

6　寫眞は額に納める。全景一枚、部分景二枚、說明書一枚。

四、製作後の感想

夏期休暇中七月三十日より八月二十日まで其の間約三週間、一同感激に燃え、始終模型の正確を飽くまで期する熱意と屢逢着する難關（製作方法）に、研究的努力を惜しみなく續ける態度は、敬虔な雰圍氣と共に我々一同に尊い體驗を與へて



下さつた。更に畏くも　天覽の光榮に浴し誠に感激にたへない。

**ホ、全道天覽成績品出品數及種目表**

次表は全道よりの天覽成績品出品數及びその内譯を參考の爲控へたものである。

天覽成績品出品總數　三二二〇　　審査合格數　一七五二

| 内譯 | 小學生 | 中學生 | 青年學校生徒 | 教職員 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 書方 | 六〇〇 | 六九 | — | — | 六六九 |
| 圖畫 | 六〇〇 | 七〇 | — | — | 六七〇 |
| 手工 | 七三 | 五〇 | — | — | 一二三 |
| 手藝、裁縫 | 三九 | 五六 | — | — | 九五 |
| 實習、作品 | — | 四六 | 七四 | — | 一二〇 |
| 研究、調査物 | — | — | — | 七五 | 七五 |
| 計 | 一三一二 | 二九一 | 七四 | 七五 | 一七五二 |

以上

旭川天覽　一五九〇　　十勝天覽　一六二

尚今次の地方行幸に際して、親しく玉歩を運ばせらるゝの外、特に道内九十餘箇所に勅使を差遣遊ばされて各般の民狀を御聽取あらせられし叡慮の程は、思ふだに感激の極みであるが、本校又之に列るを得たことは、校史に永く燦然と輝く所であらう。

十月五日、侍從親しく本校に臨ませられて、詳かに學校の施設經營の狀況及び生徒學習の狀態の一班を御覽あらせるゝに際して、合せて生徒成績品の御覽を仰いだのであつたが、恩澤正に重なれりと云ふべきである。展覽成績品の大部は夏期自由研究の作品より成り、加ふるに若干の謹作品を以てした。諸作夫々努力の誠意に溢れ、菊花馥郁たる大講堂に展開せられたる清楚の樣は誠に鑑賞に耐ゆるものがあつたと信ずる。

**茲にその成績品目錄を掲ぐれば次の如くである。**

## 2　御使上覽成績品目錄　（昭和十一年十月五日）

圖畫　三六　工作　七　國語　二五　習字　一三　數學　二二
英語　二二　地理　五　理科　九　寫眞　七　實業　八　計　一五四

〔圖畫科成績品〕

一、ポスター圖案（北海道大博覽會）五乙　關根　武男
一、水彩　靜物　二甲　加我　清藏
一、同　花　同　山谷　進
一、同　岸壁　同　野藤　亨
一、同　靜物　同　稻垣　五郎
一、同　造船場　三乙　棟　徹夫
一、同　野路　二乙　神戸　浩二
一、同　赤岩風景　二甲　山谷　進
一、同　路　五乙　關根　武男
一、同　電柱のある風景　一甲　谷戸　健藏
一、同　船入澗　三乙　棟　徹夫
一、鉛筆畫　手　一乙　新妻　胤信
一、同　手　一甲　柴野　道夫
一、油繪　木立　五甲　杉山　敬三
一、同　少女　五乙　關根　武男
一、同　ダリヤ　五甲　杉山　敬三
一、同　波止場　五乙　關根　武男
一、同　雲のある風景　同　家入　久記
一、同　公園風景　同　同
一、同　木立　五甲　杉山　敬三
一、同　秋　五乙　關根　武男
一、圖案　クロバー　一甲　小黑　德男
一、同　同　同　小川　麻吉
一、同　同　一乙　矢田　泰
一、同　同　同　水野　敏郎
一、同　アカシヤ　三乙　和田　實
一、同　同　同　棟　徹夫
一、同　同　三甲　牧野　博茂
一、同　同　二甲　加我　清藏
一、同　タンポヽ　三乙　中谷　弘
一、同　同　同　棟　徹夫
一、同　同　二甲　山谷　進



一、同　同　三甲　土門　佐市
一、同　靜物（油）　五乙　關根　武男
一、同　風景（同）　同　同

〔工作科成績品〕

一、デツキチエヤ　一乙　新妻　胤信
一、衝立　一甲　谷戸　健藏
一、同　同　柴野　道夫
一、同　二乙　神戸　浩二
一、木立　二甲　野藤　亨
一、同　二乙　上田外次郎
一、同　三乙　木村　清悟
一、同　同　中田　修一
一、同　同　中谷　宏
一、油繪具函　同　棟　徹夫
一、同　二甲　山谷　進
一、同　同　加我　清藏
一、花瓶臺　四甲　宮本　昇
一、スケツチ函　五乙　關根　武男

〔國語科成績品〕

一、文集「錦旗奉迎の秋」　五年　一六、四年　九
一、同「我が理想」　二乙　小山　道義
一、創作「人間の前途」　二甲　前田三津男
一、同「舊友」　同　竹内　清
一、同「追剝と少年」　同　芳谷啓二郎
一、文集「しづく其他」　同　小畑　幸一
一、同「夏」　二乙　神戸　浩二
一、同「月」　二甲　長尾　昌弘
一、同「くも」　同　宮腰　秀勝
一、同「草相撲」　二乙　洞ヶ瀨文治
一、同「機會其他」　三甲　原　金吉
一、同「麥笛」　三乙　棟　徹夫
一、同「追憶の日」　同　丸山　進
一、隨筆「微光」　同　信野　愼一
一、歌集「思出の園」　同　山田　四郎
一、文集「維新の英傑木戸孝允」　二乙　佐藤　清晴
一、神皇正統記に表れたる北畠親房三　乙　中谷　弘
一、戯曲「印度人の小屋」　一甲　砂山　讓
一、同「愛馬」と童話　一乙　佐野　實
一、漢字書取帳　一甲　小黑　德男
一、論語孟子解釋　五甲　竹内新一郎
一、同　五乙　三笠　實
一、同　同　笠島　義隆

一、文集「趣　味」　三甲　堤　秀三郎
一、作文「錦旗奉迎の秋」　五乙　山田　博

〔習字科成績品〕

(五年)　佐治勇三　松田惇二
(四年)　工藤三義　佐々木松平
　　下澤健三　石田善清
(三年)　丸田廣之　池　一秋
　　竹内謙二
(二年)　野村正男　高橋千歳
(一年)　小川麻吉　白井英雄

〔數學科成績品〕

數學模型ピタゴラス定理說明器　三乙　山崎一男
一、同　比例中項說明器　同　北村正男
一、同　正多面體(十二)　一甲　藤原　優
一、同　同　(八)　同　南　昌導
一、同　同　(六)　同　中野幸男
一、同　同　(二十)　同　中田謙次郎
一、同　同　(四)　同　新敷　勇
一、數學圖形(七)　一甲　砂山　讓
　　(一)　同　藤原　優
一、數學遊戯　三乙　山崎一男
一、數學圖形　同　北村正之
一、直角三角形の研究　二　中田　清
一、幾何定理集　三乙　山崎一男
一、二次方程式　同　北村正之
一、定理と問題　三乙　丸山　進
一、面白い數學　二甲　小畑幸一
一、同　同　同
　　二乙　高橋幸一

〔英語科成績品〕

一、リーダに表はれる偉人の傳記研究(二二)　一甲　佐藤　正
一、コロンブスの傳記　同　井出壽五郎
一、沙翁略傳　同　砂山　讓
一、ロダンの傳記　二甲　竹内省三
一、ネルソン物語　同　芳谷啓二郎
一、エヂソン　同　白岩一彦
一、トルストイ傳　同　長尾昌弘
一、リンカーン　二乙　小山道義
一、エヂソン傳　山田　博
一、飜譯スチヴンスン作「靈の小鬼」五乙　黑田　登
一、自由作文 At Osaka　四乙　二木次雄
一、英習字　同



一、同　同　萩谷三千夫
一、同　三甲　吉能久吉
一、同　同　小野吉實
一、同　同　濱中朗
一、同　ポスト　カード　五乙　關根武男
　　五甲　上光清

〔地理科成績品〕

一、小樽近郊地理模型　地歷部員
一、小樽市地理模型　四乙　足立博司
　　同　黑田登
一、利尻島模型　四乙　大道宏三
一、阿寒岳　二甲　藤井啓司
一、羊蹄山附近　五乙　關根武男

〔理科成績品〕

一、論文「北海道に於ける化學工業」　五乙　德光良孝
一、昆虫標本　六函　理科部員
一、ラヂオセット(三球ベントード)　四乙　池田正男
一、九二式戰鬪機模型　同　松濱春雄
一、理科圖表(五)

〔寫　眞〕

一、我が母校　三甲　吉能久吉
一、弘前城の濠　同　同
一、林中の塔　同　同
一、釣る人　三乙　中田修一
一、海光る　四乙　足立博司
一、汀に遊ぶ　五甲　竹内新一郎
一、港の印象　五乙　伊藤利郎
一、小舟　五甲　名倉一郎

〔實業科成績品〕

一、教授資料圖表(八枚)
一、豌豆輸出額及金額統計圖　四乙　中川惠
一、楢挽材輸出金額統計圖　同　同
一、小樽港輸移出入貨物累年比較　同　萩谷三千夫
一、全國主要港貨物出入順位　同　同
一、現今主要國家一覽表　同　同
一、小樽港汽船出入累年比較　同　石井龍司
一、小樽港出入汽船合計累年比較　同
一、同　同
一、同　同

以上天覽を仰いだ成績品及び御使御覽の成績品の主なるものは、特に設備を設けて永く本校に留めて、以て斯の光榮を仰ぐの資とする豫定である。

## 五、衞生施設及身體檢査

特に地方行幸の御公示に際しては當局の通牒により左の通り豫防注射並に消毒をなし左記各衞生事項を嚴重に實施をした

一、腸チフス豫防藥又は豫防注射七月末終了

一、種痘七月末終了

一、御使御巡覽に際しては全校舍校庭の清掃を徹底的に實施し猶前日並に當日朝は御巡覽經路を石炭酸にて消毒をなす

一、天覽製作品係生徒は豫め健康診斷を致したる後製作に從事せしめ、製作場は消毒を施し場内に消毒液を貯へ常に消毒して後製作に携ることゝした

## 六、御使御臨校の狀況

### 1. 道廳及市との交渉日程事項及豫算、營繕事項

**イ、交渉日程及事項**

九月一日。畏くも 聖上陛下には今次陸軍特別大演習並に地方行幸に際し、本校へ侍從御差遣方御内定の由小樽市役所秘書課より内達あり、直ちに藤井校長始め石栗、新井、山内、藤原(惠)、沼田、平田、山田の各職員參集、市役所へ提出すべき侍從御差遣次第計畫書につき協議をなす。

九月二日。御差遣次第書市役所へ提出。侍從奉迎に關する諸準備のため職員部署決定。市役所より川内秘書係主任檢分旁々打合の爲來校。



九月三日。御使御差遣に關し、奉呈書册、展覽品の謹作、奉迎に關する校内外の整備に關し經費豫算書を製作、翌四日小樽市長へ提出する。

九月五日。北海道廳學務課上田屬より次第書、要圖及校務概況書に就いて作製上參考事項回示があつた。

九月七日。市役所營繕課長成田技師營繕事項に關し調査のため出校。

同日午後市役所より土居助役成田營繕課長及川内秘書係主任を從ひ檢分のため來校。北海道廳上田屬宛次第書及要圖各二部提出する。

九月十六日。御使御差遣事務打合會に出席の爲藤井校長札幌市へ出張する。

九月十八日。曩に市役所へ提出の御使奉迎費豫算八百圓也特別支出承認せられる。

九月二十二日。天皇陛下本道御駐蹕中 畏き御思召に依り九十二箇所の多きに亘り御使を御差遣あらせらるべき旨本日正式に發表せられる。

◎本校關係分

御　使　侍從　伯爵　甘露寺受長

御　宿　札幌市　山　形　屋

御使御差遣御日程

| | | | |
|---|---|---|---|
| 月　日 | | 十月五日(月) | |
| 大本營御發 | | 午前七時五十五分 | |
| 札幌驛御發 | | 同　八時七分 | |
| 小樽驛御着 | | 同　九時二十七分 | |
| 本校御着 | | 同　九時四十分 | |
| 本校御發 | | 同　十時三十分 | |

(他箇所を經て)

大本營御着　午後三時四十五分

隨員　青木宮内屬

嚮導官　北海道廳　鈴木商工主事

係員　同　關屬

九月二十五日。北海道廳鈴木商工主事、板谷小樽市長、鹽谷市秘書課長等檢分のため來校する。

九月二十九日。曩に北海道廳總務部長宛御使御視察の狀況を活動寫眞に撮影方許可出願中の處左記の通許可の旨指令があつた。

記

一、玄關御着
一、理科室御巡覽
一、成績品御覽
一、體操演習御覽
一、玄關御出發

九月三十日。小樽警察署係員數名檢分のため來校。

十月四日。前日來の大暴風雨のため校舍屋根約五十坪飛散、窓ガラス破損等被害が甚大であるので、市役所營繕課から大工人夫を增派して應急修理に努める。

十月五日。午前九時四十分御使御到着、校内御視察の上同十時三十分御出發あらせられる。

十月十二日。十月五日付北海道廳總務部長よりの申越に依り說明書副本一部及記念寫眞五部（宮内省の分を含む）同部長宛送付する。

十一月二十七日。十一月十四日付北海道廳總務部長宛左記寫眞を繪葉書に作製、職員生徒並學校關係者に頒布方差支の有無を伺出中の處差支なき旨回答があつた。



記

一、御使玄關前に於ける記念撮影
一、御使體操等御覽の記念撮影

## ロ　市への請求豫算明細書

◎御使奉迎に關する校内外の整備に關し、諸準備並施設に要する經費特別支出方小樽市長へ請求豫算明細書左の通り

一、正室美裝調度費　七四、五〇〇円

御机　八、五〇〇
卓子掛　二五、〇〇〇
椅子　三五、〇〇〇
窓掛（三ケ）　三七、五〇〇
床敷　一二、〇〇〇
茶器類　一一、五〇〇
〔合計　一二九、五〇〇ノ内〕

備考　金屏風一三〇、〇〇卒業生寄贈

二、奉呈學事要覽寫眞帳　七五、〇〇〇

要覽ノ表裝　五、〇〇〇
寫眞帳調製　七〇、〇〇〇
複寫依頼十枚五〇圓、生徒ノ撮影現像及製本二〇圓

記念寫眞撮影十枚五五圓（校友會支出）

（合計　一三〇、〇〇〇ノ内）

三、各科展覽成績品謹作費　二四六、五〇〇

十科七十點製作費　二一〇、〇〇〇
陳列費　三六、五〇〇
本枠、白布、臺紙、表裝等

四、御視察授業ノ整備及用具費　一四四、九〇〇

イ　教具及校具類ノ補修　一二〇、七〇〇
教具ノ補充　一七、七〇〇
計算尺、模型製作
體操器具ノ修理　一八、〇〇〇
マット修理三、跳躍板塗替一、跳箱塗替四、踏切板塗替三　二二、七〇〇
屋内運動場　屋内運動場ノライン及川具ノ塗替、上衣掛示板ノ修理

博物教室生徒机教卓黑板塗替　九、七〇〇
數學教室　同　一一、六〇〇
理科教室生徒實驗臺塗替及修理　四一、〇〇〇
移動鐵棒三　一三五、〇〇〇
〔合計　二五五、七〇〇ノ内〕
ロ　教室内小破修繕ノ見込　二四、二〇〇
（營繕課ニテ實地調査ノ豫定）
五、御巡覽個所及御通路ノ整備費　四五二、五〇〇
イ　校園ノ一部修築　一七三、八〇〇
補植費　一一四、五〇〇
手入費　三四、八〇〇
用具及標柱　二四、五〇〇
ロ　玄關及校内外御道筋ノ補修見込　二七八、七〇〇
（營繕課ニテ實地調査ノ豫定）
〔請求額合計　九九三、四〇〇〕

**八　校費、校友會、同窓會支出豫算書**

一、御休憩室、机、椅子、茶器類　五五、〇〇〇（校　費）
二、御接待及裝飾費　三二、一五〇（　同　）
三、清掃用品　二五、二〇〇（　同　）
四、金屏風　一三〇、〇〇〇（同窓生）
五、體操用具費　一〇五、〇〇〇（校友會）
六、記念寫眞撮影　五五、〇〇〇（同豫備費）
七、記念繪葉書　四四、〇〇〇（　同　）
八、記念紋菓　六六、〇〇〇（　同　）
〔合計　五一二、三五〇〕

**二　侍從御差遣に關する經費配當豫算**

一、正室調度費　六八、五〇〇円
御机　八、五〇〇円
椅子　三五、〇〇〇
卓子掛　二五、〇〇〇
二、概況、寫眞、調製費　三五、〇〇〇
寫眞撮影現像及表裝費　三五、〇〇〇
三、成績品展覽費　一四〇、〇〇〇
展覽品作製　一〇三、五〇〇
陳列材料　三六、五〇〇
四、教具及校具類補修費　一二〇、七〇〇
教具ノ補充　一七、七〇〇
體操用具ノ修理　一八、〇〇〇
屋内運動場器具ノ修理　二二、七〇〇
數學及博物教室校具修理　二一、三〇〇



理科教室校具修理　四一、〇〇〇
五、校園補修費　一三五、八〇〇
樹栽ノ補植手入及標柱　一三五、八〇〇
六、御道筋ノ營繕費　三〇〇、〇〇〇
（營繕課ニ於テ實地調査ノ通）
〔合計　八〇〇、〇〇〇〕

**ホ　營繕に關する設備、修繕**

一、正室
壁面塗裝修理、水道パイプ取除
一、隨員室
笠木ノ手直修理
一、各室
1　理科室手洗器取替
2　博物室
（イ）顯微鏡臺設置
（ロ）幻燈用電燈線配線
（ハ）教師用教卓附設ノ手洗器取付
3　化學實驗室及準備室ノ踏段設置
4　物理準備室充電用棚取付
5　黑幕用ワイヤロープ取替修理
一、廊下其他
1　職員用手洗器取替
2　御通路二階々段ノ手直
3　數學教室ノ壁及出入口敷居修理
4　屋内運動場ヨリ工作室ヘ通スル廊下ノ天井張リ腰モルタル塗及踏段新設
5　職員便所ノ塗裝
6　各室戸ノ建付等小破修理
7　電燈配線及器具ノ補修修理
一、屋外
1　正門坂道、玄關及奉置所前路面ノ砂利及石粉敷
2　プール石段ノ手直シ
3　講堂出口ノ階段取付
4　講堂出口ヨリ屋外運動場トラツクヲ經テ工作室入口ニ至ル御道筋及金工室出口ヨリ生徒昇降口ニ至ル御道筋ノ石粉敷
5　校園中央部降リ口ニ階段新設
6　屋外運動場トラツクノ石炭殼敷
7　金工室内部出入口ノ踏段設置
8　生徒昇降口雨受ケノ天井板修理及出入口階段ノコンクリート塗替修理
9　玄關上校名文字盤修理

## ヘ　御使奉迎諸準備並施設經費について

今般本校に御使御差遣方御内示に接し、職員生徒一同恐懼感激に堪へず、奉呈書冊、展覽品の謹作、御使奉迎に關する校内外の整備につき諸準備萬端遺漏なきを期すべく經費一五〇〇餘圓を以て計劃立案し内約一〇〇〇圓を市の特別支出に仰かむと請求豫算書を提出したが市よりは別記配當豫算書の通り八〇〇圓の支出を承認せられた。

正室調度品の金屏風は第六七期卒業生の寄贈品で此の光榮を永久に記念することが出來、御机、御椅子、御帽子臺、花臺其他窓掛に至る迄、調度品は全部新調、御視察授業の教具、補充、理科實驗具の補修、校具の修理、黒板塗替、其他教卓及生徒机塗替修繕、體操用の鐵棒三基、マット四枚新規購入、各科展覽成績品陳列設備、校園の記念修築として樹栽の手入、補植など、營繕關係事項は別記の通り、萬事遺漏なき迄に諸準備を完了した。

尚生徒及關係父兄に此の光榮を分つべく記念紋菓を製作頒布し、又御巡覽の狀況を活動寫眞に撮影申し上げたるなど、用意周到を極めたるため、諸經費も最初立案企劃したる額を遙かに突破し、實に一六二九圓餘を要したる次第である。其の出費別額左の通りである。

記

| | |
|---|---|
| 市費特別支出 | 八〇〇、〇〇〇円 |
| 同　別途支出 | 六五、四八〇 |
| 校費（經常）支出 | 三五九、五四〇 |
| 校友會支出 | 二七四、四七〇 |
| 卒業生（金屏風） | 一三〇、〇〇〇 |
| 〔合計　一六二九、四九〇〕 | |

## 2　御使奉迎特別作業

### イ　屋内作業



九月五日（土曜）全職員打合に於て巡覽整備係の名の下に特別作業係發表があり、打合終了後作業係教師殘留分擔を左の如く決定した。

屋内作業企劃（平田、松本、内堀教諭）

右統制石栗教諭

第一期工作（自九月七日　至九月十九日）

毎日一個學年又は二個學年各分擔區域の天井、窓、硝子及腰板清掃をなす。「プール」は窓硝子洗場とした。曹達二箱、タワシ一〇〇個、雑巾一〇〇枚購入する。尚清掃には展覽品製作係體操部生徒を除く。

第二期工作（自九月二十一日　至九月二十六日）

全學年を班別に仕直し（體操部、展覽會係生徒約一〇〇名を除きたるため）此班別により新に清掃分擔區域を決定し用具を全部配當して午前は授業午後は清掃に當る。主として床板、机洗をなす。生徒は皆熱心に眞面目に光榮の日を迎へんとして床板を曹達水でタワシがけする位平常の作業と異つた寮園氣を感じた。かくして第二期終りには校内清掃全く行き渡り見違へるやうに綺麗になつた。尚此期間に於て雨天體操場、講堂、階段生徒の力で不可能の部は特に傭人により窓硝子清掃をなす。此期間に於て「タワシ」一〇〇個、雑巾一〇〇枚、曹達三箱を補充す。

第三期工作（自九月二十八日　至十月三日）

此の期は總仕上行程にして今迄の清掃を再吟味し、不充分の個所を直すことに當る。主として硝子拭きである。九月二十九日（火曜）より午後授業開始放課後清掃となる。そのため分擔區中少し豫定に狂ひを生じたものがあつた。十月三日（土曜）全校清掃終了し榮ある五日を迎へるべく用意完了した。

（附記）　十月四日突然の大暴風雨があり、校内のポプラ倒れ又は傾き、アカシヤは折れ、校舍トタン板の宙に舞ふ等、又硝子の破損多數あり一ヶ月の努力空に歸した觀があつた。當日日曜であるが四B、二A、體操部員その他展覽品係生徒來校したので之等生徒で、トタン板拾ひ等をなし一應取片付けをなす。又市役所より傭人多數來校、應援應急處理をなした。翌五日は四B、二A生徒により勅使御成前御道筋の硝子拭きをした。左表は清掃配當表である。

屋外作業企劃（原教諭、鶴木囑託）

## 特別清掃作業區分、用具置場、用具配當表（自九月廿一日　至十月十日）（自十月十二日復舊）

| 學組 | 擔當班名 | 雨天增加班 | 場所 | 教師 | 用具置場 | バケツ | ホーキ | ハタキ | チリトリ | ゾウキン | タワシ | デキツ | 屋外班名 | 屋外教師 | 雨天ノ際監督 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 一甲 | 一 | 四 | 教室 | 内堀 新井 | 北 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六 | 四 | | | | |
| 一甲 | 二 | 四 | 入口階段 | 有海 | 北 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六 | 四 | | | | |
| 一乙 | 三 | 五 | 講堂 | 松本 | 奥 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六 | 四 | | | | |
| 一乙 | 一 | 四 | 教室 | 内堀 新井 | 北 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六 | 四 | | | | |
| 一乙 | 二 | | 柔道堂 | 松本 | 奥 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六 | 四 | | ◉ | 六 | 校長室 職員 中央廊下 中央階段 |
| 一乙 | 三 | | 講堂 | 同 | 奥 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六 | 四 | | ◉ | 五 | |
| 二甲 | 一 | | 教室 | 内堀 新井 | 北 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六 | 四 | | ◉ | 四 | |
| 二甲 | 二、三、四 | | 中央廊下、階段 校長、職員室 | 山内 渡邊（啓） | 中央 北 | 八 | 八 | 四 | 四 | 二 | 二 | 六 | | | |
| 二乙 | 五、六 | | 靴置場、小使室廊下 | 有海 | 北 | 四 | 四 | 二 | 二 | 二 | 二 | | | | |
| 二乙 | 一 | | 教室 | 内堀 新井 | 北 | 二 | 二 | 一 | 一 | 六 | 四 | | | | 雨天體操場 |
| 二乙 | 二、三 | 四 | 工作室 | 鈴木 | 北 | 四 | 四 | 二 | 二 | 六 | 四 | | ◉ | 五 | 中里 |
| 三甲 | 一 | | 教室 | 内堀 新井 | 中央 | 二 | 二 | 一 | 一 | 六 | 四 | | | 四 | |
| 三甲 | 二 | 五 | 博物室 | 松原 本 | 奥 | 二 | 二 | 一 | 一 | 六 | 四 | | | 六 | 中里 |
| 三乙 | 三、四 | 六 | 奥階段、便所前廊下 | 内堀 新井 | 奥 | 六 | 六 | 三 | 三 | 八 | 八 | 六 | | 五 | |
| 三乙 | 一 | | 教室 | 内堀 新井 | 中央 | 二 | 二 | 一 | 一 | 六 | 四 | | | 二 | 中里 |
| 三乙 | 三、四、五、六 | 二 | 雨天體操場 | 八尾 | 中央 | 二〇 | 一〇 | 五 | 四 | 三〇 | 一〇 | 二〇 | | | |
| 四甲 | 二、四、五 | 一 | 教室 | 藤原 杉本 | 中央 | 六 | 六 | 三 | 三 | 八 | 八 | | | | |

注意
一、屋外◉印班ハ雨天ノ際特ニ應援個所ヲ指示ス。◉以外ノ屋外班モ他個所ニ應援ヲ命ズルコトアルベシ。
二、◉班必要ノ際ニハ各擔當區教師ハ石渠（平田）ニ申込マレタシ。
三、豫備ノ用具ハ僅少故配當用具ニテ全能力ヲ擧ゲラレタシ。尙用具檢査ヲ嚴重ニ。
四、九月廿一日ヨリ廿六日マデ完了セラルヽヤウ指導サレタシ。九月廿八日ヨリ三十日マデハ總仕上ゲノ豫定ナリ。
五、階上ハ階下ニ水ノ絶對ニ漏ラヌヤウナサレタシ。
六、ソーダ湯ヘ充分ニ補給ス。見込數午前中ニ作業黑板ニ記入ヲ乞フ。

| 學組 | 擔當班名 | 雨天增加班 | 場所 | 教師 | 用具置場 | バケツ | ホーキ | ハタキ | チリトリ | ゾウキン | タワシ | デキツ | 屋外班名 | 屋外教師 | 雨天ノ際監督 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 四乙 | 二乙五 | | 教室 | 博物 | 中央 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六 | 四 | | | | |
| 四乙 | 六 | | 博物室 | 標原 | 奥 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六 | 四 | | | | |
| 四乙 | 一 | | 教室 | 内堀 新井 | 中央 | 二 | 二 | 一 | 一 | 六 | 四 | | | | |
| 四乙 | 二、三、四 | | 物理 | 藤原 杉本 | 中央 | 六 | 六 | 三 | 三 | 八 | 八 | | | | |
| 四乙 | 五 | 六 | 事務、應接室 | 渡（啓）水野 | 中央 | 二 | 二 | 一 | 一 | 六 | 四 | | | | |
| 五甲 | 一 | | 教室 | 内堀 新井 | 奥 | 二 | 二 | 一 | 一 | 六 | 四 | | | | |
| 五甲 | 二、三、五 | | 生徒入口及圖書室 | 沼田 | 北 | 四 | 四 | 三 | 三 | 一五 | 一五 | 三 | ◉ | 六 | 鶴木 |
| 五乙 | 一 | | 教室 | 内堀 新井 | 奥 | 二 | 二 | 一 | 一 | 六 | 四 | | | 六 | 鶴木 |
| 五乙 | 二、三 | 六 | 英地歴教室 | 同 | 中央 | 三 | 三 | 二 | 二 | 一〇 | 七 | | | | |
| 五乙 | 四、五 | | 會議室 | 沼田 | 北 | 三 | 二 | 一 | 一 | 一〇 | 一〇 | 三 | | | |

作業班別（◎班長　○副班長）

【第一學年】甲

第一班　◎會田　○大小島　阿部　龜山　井出　伊藤　大場
第二班　◎箕輪　○東野　鎌田　立花　高橋　西本　吉田（久）〔七名〕
第三班　◎五十嵐　○神崎　生田目　今堀　市江　井須　紙合〔七名〕
第四班　◎吉田　○山田　加藤　黑坂　中島　奈良　水島　山上〔八名〕
第五班　◎砂山　○長野　上野　佐藤　木村　高橋（正）　野瀨〔七名〕
第六班　◎水野　○橋本　川島　光森　守谷　山本　吉田（重）〔七名〕

【第一學年】乙

第一班 ◎越村 ○島田 石塚 江村 小田 大野 鎌田 〔七名〕
第二班 ◎田中 ○水野 申 白鳥 高木 戸羽 藤田 〔七名〕
第三班 ◎黒田 ○神田 阿部 伊藤 緒方 河野 山崎 〔七名〕
第四班 ◎渡邊 ○吉岡 近藤 木皿 東山 古谷 六井 〔七名〕
第五班 ◎絹田 ○栗原 東 池上 柿本 小林 欄井 〔七名〕
第六〇 ◎元谷 ○本間 齋藤 佐藤 角 名倉 矢田 〔七名〕

【第二學年】甲

第一班 ◎中田 ○田卷 竹内 小島(幸) 齋藤 山崎 〔七名〕
第二班 ◎新岡 ○芳谷 寺岡 加藤(正) 稲垣(益) 本間 〔六名〕
第三班 ◎新井 ○阿部 吉田 白瀬 伊藤(初) 山本(忠) 高塚 〔七名〕
第四班 ◎高橋 ○前田 鈴木 牧野 稲垣(五) 長谷川 中西 〔七名〕
第五班 ◎佐藤 ○酒井 伊藤 新村 竹内(省) 山本(博) 鈴木(義) 〔七名〕
第六〇 ◎相田 ○鹿島 加藤 吉川 菊地 工藤 河原 〔七名〕

【第二學年】乙

第一班 ◎鈴木(邦) ○田澤 小林 太田良 塚原 西島 〔六名〕
第二班 ◎石川 ○寺本 石割 力石 鹽谷 足立 庄司 〔七名〕
第三班 ◎久保田 ○水谷 野澤 鹿内 近田 米田 加藤(正) 〔七名〕
第四班 ◎田邊 ○岩尾 乾 白井 川村 長谷川 堅田 〔七名〕
第五班 ◎佐藤(清) ○宮腰 土田 岩崎 谷口 有福 〔七名〕
第六〇 ◎松田 ○上田(康) 佐藤 成田 逢澤 加藤 〔六名〕

【第三學年】甲

第一班 ◎本間 ○大岩 猪股 中川 小林 吉田 〔六名〕
第二班 ◎濱中 ○渡部 宮腰 上光 安田 〔五名〕
第三班 ◎長谷川 ○横田 香村 宮崎 船木 加能 〔六名〕
第四班 ◎河原 ○小野 川合 菊 高木 三浦 〔六名〕



第五班 ◎鷲澤 ○鎌田 堤 大久保 長尾 佐藤 〔六名〕
第六〇 ◎大友 ○山本 小松 牧野 三ッ野 西田 〔六名〕
第一班 ◎今堀 ○東山 内田 吉田 名倉 横尾 〔六名〕
第二班 ◎畑 ○藤井 湊 藤本 西江 齋藤 〔六名〕
第三班 ◎樺田 ○山田 大門 佐藤 木下 〔五名〕
第四班 ◎末廣 ○滝澤 泉 手塚 鈴木 新 〔六名〕
第五班 ◎井戸井 ○伊藤 山岸 伊原 大橋 福田 〔六名〕
第六〇 ◎高橋 ○市橋 佐藤(良) 早坂 兒玉 田中 〔六名〕

【第四學年】甲

第一班 ◎樺田 ○前田 酒井 遠藤 本間 村谷 〔六名〕
第二班 ◎津山 ○吉崎 阿部 菊地 高桑 澤田 土野 〔七名〕
第三班 ◎伊吹 ○福 宮本 眞島 篠田 松浦 〔六名〕
第四班 ◎藤井 ◎小西 吉川 山内 田邊 高橋 〔六名〕
第五班 ◎佐藤 ○水野 彦林 熊谷 白濱 北 〔六名〕
第六〇 ◎渡邊 ○浦谷 坪井 緒方 清水 遠藤 〔六名〕

【第四學年】乙

第一班 ◎濱谷 ○曾根 中田 關口 輪島 〔五名〕
第二班 ◎發田 ○敗中 中川 不室 〔四名〕
第三班 ◎加藤 ○白戸 山信田 西野 〔四名〕
第四班 ◎大橋 ○二木 來島 河原 谷野 〔五名〕
第五班 ◎星 ○惣田 三箇 下澤 吉野 〔五名〕
第六〇 ◎岡部 ○村上 岡井 齋藤 伊藤 〔五名〕

第一班 ◎鷲澤 ○中川 佐々木 曾根 竹田 〔五名〕
第二班 ◎石積 ○小林 東山 山本 〔四名〕

第三班　◎本　家　○竹　内　千　野　古　川　丸　山
第四班　｜　｜　｜　｜　｜
【第五學年】甲
第五班　◎青　木　○伊　藤　綛　谷　中　西　上　光　〔五名〕
第六班　◎吉　林　○金　山　内　田　鬼　塚　佐　藤　宮　崎　〔六名〕
【第五學年】乙
第一班　◎石　井　○吉　田　生　亀　紙　谷　佐　藤　岩　崎　〔六名〕
第二班　◎篠　原　○高　山　織　田　川　合　渡邊(三)　奥　村　〔六名〕
第三班　◎伊藤(慶)　○伊藤(榮)　加　納　石　田　藤　尾　〔五名〕
第四班　◎宮　下　○山　田　道　場　長　澤　三　笠　〔五名〕
第五班　◎伊藤(利)　○佐藤(康)　横　山　青　木　渡　邊　〔五名〕
第六班　◎横　木　○尾　形　對　島　八　田　五百澤　小笠原　〔六名〕

## ロ　屋　外　作　業

九月五日（土曜日）全職員打合後に、作業係のみで打合せをし、屋内、屋外作業を分擔實施することに決定。屋外作業は原教諭、鶴木囑託擔當して計劃、實施をなすことになつた。

先づ全校生徒の作業地の分擔を前表の如く定め、實施作業の要領を左の如く決定して、第一期作業を行ふ。

一年　1花卉園の除草整理（四、五回行ふ）。2落葉松刈込み後の整理。3第一圃場の整理（四、五回行ふ）。4學校園の雜草取り

二年　1トラックの芝切り、雜草取り及び整理（數回行ふ、多い程良いとして他の作業終り次第、援助させ能率を上げた）。2新階段前の路つけ及びトラックのライン引き。3植付穴の作成、植付後の灌水。4植樹せるポプラ根際の芝整理。5トラック芝植ゑ（數回行ふ）。

三年　1テニス・コート、及びプール周園の芝の整理。2下水の清掃（三回位行ふ）。3植付穴の作成。4花卉園の整理。5雜草取り（分擔區を四、五回行ふ）。



四年　1記念庭園の整理（落葉松の刈込み、遊歩路の修理、炭殻敷、池の修理、小石の整理、小苗の整理等）。2鐵條網の修理。3玉砂利敷、花壇整理。4萩の整理。

四年生に植樹班を定めて植樹を專ら行ふ。（この植樹に用ひられた樹種、本數は後に記す）。

五年　1花壇整理（庭樹整理に庭師を使ふ）。2芝生切り。3奉安所周園の整理（煉瓦うめ）。4植付穴の作成。5玄關前の整理、前庭の手入。6中庭の整理、テニス・コート（中庭）の芝切り。

五年生には用具班を設け、專ら用具の配當、後始末を行はしめ、又、下水、煉瓦洗ひを行はしめる。（校舍周圍校園の下水及び校舍の腰煉瓦の清拭を行ふ）。

右記により第一期作業を行ひ、不足と思はれる個所は再び作業を第二期に行ひ、各個所の連絡作業を行ひ、校外を五年生整理班を鶴木主任指揮の元に毎日見廻り不備の個所を例記し毎日これを補充して行ひ、豫定の如く、九月二十八日迄に之を終了した。

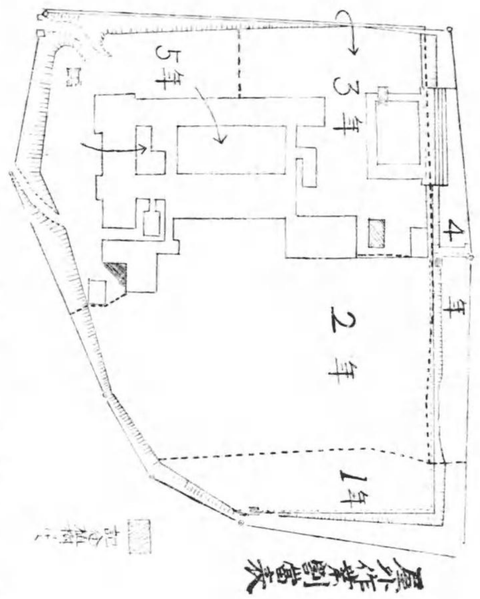
その後は第三期作業の豫定に入り、校外全部の整理のみを行ひ（各個所の細部は前作業で出來上つたので）毎日清掃のみを行ふ。十月四日突然の大暴風雨の爲め、植付けたる庭樹及びアラシヤ、ポプラ等多數倒され雨の爲通路は殆んどよごれて、一ヶ月の努力も水泡となつた觀があつた。けれども當日出來得る限り倒れたものを起し丸太でとゞめ、應急處置を行ひ、落葉の整理を行つた。

前日迄は生徒の手により見違へるやうに整理され、庭樹も庭師のはさみの入つた後とて、整枝された樣は正に一段と冴えて居つたのであるが、應急處置のためあまりにも痛々しく感じられるのが、殘念でならなかつた。

當日、玄關前及、御通り路の整理を五年整理係で清掃し、光榮の日を御迎へ申し上げた。

御使御差遣記念植樹

（ポプラ）四十五本、（高野槇）十二本、（トーヒ）十三本、（萩）十三本、（トド松）一本、（アカシヤ）一本、（ヒムロ杉）一本、（ドウダンツツジ）十五本、（山吹）九本、（淀川）五本、（ギボシ）三十一本、（シマガヤ）十本、（アヂサヰ）三本。




## 3　當日の狀況並に言上書、概況書

### イ　當日の狀況

九月初旬畏くも　天皇陛下には學事御奬勵の大御心より、本校へ御使として甘露寺侍從御差遣の由、漏れ承り、學校長初め教職員生徒一同は、開校以來初めての光榮とて感激措くあたはず、只管御待ち申上げてゐたのである。

十月五日、遂に待望の日は來た。此の日昨日の荒天に引かへ秋空一碧の好日和であつた。午前九時四十分、職員生徒及び父兄同窓生堵列奉迎に御答禮相成りつゝ御玄關に御到着、學校長奏任官待遇職員の御出迎へを受けさせられ、學校長の御案内にて御休憩室に入らせられ、同所へ有資格者伺候、先づ嚮導官鈴木商工主事、學校長藤井德三郎、小樽市長板谷宮吉兩氏を御紹介、次に本校教諭石栗渓、新井豐太郎、山内實の三名を列立各別に學校長御紹介。次いで凡そ別掲の如き校務の御説明を言上、校務概況書並びに本校の概況寫眞帳を奉呈、右終るや學校長の御先導にて、本道に於て有數を誇る理科設備の御巡覽にうつり、理科研究室に於ては六月十九日の日蝕觀測結果の圖表、寫眞並びに生徒實驗用具、圖書等を學校長の御説明にて御覽、暗室にてはテスラコイルに依る電氣振動に關する生徒の實驗に合せて同室に整置せる眞空管類を御覽に供し、理科器械室にては理科各部門に分類整置したる實驗器具類、及び友田式波動實驗器による定常波の實驗、理科實驗室に於ては、市内並びに道内見學蒐集品と市内工場寫眞及び工場分布地圖を御覽、理科準備室に於ては、ソルベー法による炭酸ソーダ製造に關する生徒の實驗と同室の設



備とを御覽になり、次いで博物標本室にて各種標本の陳列、プレパラト製作順序展覽、道産品の陳列を御巡覽、博物教室にては原教諭指導にて藥緑素、葉黄素、花青素、カロチンの四種に就ての植物色素の實驗（二學年生）及び授業を、數學教室にては、平田教諭指導、四年生の計算尺應用の計算演習、及び本校教師製作にかゝる長さ二米の大計算尺に依る操作方法に關する注意等を御覽の上、本校講堂にて英語、數學、國語、習字、圖畫、工作、地理、理科、寫眞、實業等に關する生徒成績品、總言百五十餘點を御巡覽、それより講堂西口より御出場、プール御一覽の上、生徒勤勞作業に依る十周年記念園及び圃場に就き御説明申上げ、屋外運動場にて本校の特技器械體操を御覽になつた。

各學年代表生徒四十六名が白の運動服に身を潔め、校庭に配置された四臺の鐵棒前に整列、指揮者藤原教諭の合圖にて第一鐵棒より循環式に實演、種目八種、蹴上り——斜後下——脚懸上——振跳に初まり、大車輪——正面下りの高等技術で終了、續いて跳箱に於ける側轉廻跳、跳躍板の前方宙返り等の技術を御覽に供し、續いて工作室に御入室、鈴木教諭指導の第三學年實習作業——旋盤機械にて机の脚製作、グラインダアにて旋盤用バイト研磨等の機械應用作業、並びに旋盤機に依る製作品（お盆、花鉢臺）のベーバー仕上げ、ニスによる塗工、植木鉢組立等の机上作業を御覽に入れ、次ぎに金工室に於ては鶴木囑託指導の三年生による金工作業（小刀製作）を御覽、これにて御巡覽を終了せられ、再び御休憩室にて御少憩、此の間學校長に種々有難き御言葉あり、御玄關にて記念撮影、こゝに本校に於ける御豫定を滯りなく完了、午前十時三十分、學校長、教職員生徒、其他關係各員の心からなる御見送りを受けさせられつゝ御出發になられた。

尚ほ侍從御差遣次第書、學校長の本校沿革及現況御説明の概要、及び献上の校務概況書、寫眞帳目錄、記念寫眞、同繪葉書、活動寫眞内容目次等は次の通りである。

### ロ　侍從御差遣次第書

十月五日午前九時四十分御到着——所要時間五十分

一、御　出　迎　校長は玄關に向つて右側に於て御出迎、奏任官徒遇職員は學校長の後列に位置し御出迎、其他の職員及生徒は正門前街路校舍に向つて左側に整列御出迎。

二、御　案　内　場所——御休憩室（圖書室）。所要時間——一分。校長

三、伺　候　場所――御休憩室。所要時間――三分。校長藤井德三郎、小樽市長板谷宮吉――嚮導官御紹介。奏任官待遇者石栗浚、新井豐太郎、山内實――校長御紹介。

四、校務御説明　場所――御休憩室。所要時間――五分。校長。

五、理科設備御巡覽（六室）　場所――物理實驗室及準備室。理化器具室。化學實驗室及準備室。博物標本室。所要時間――五分。校長御案内御説明。

六、理科授業御覽（二年）　場所――博物教室。所要時間――六分。校長御案内。

七、數學科授業御覽（四年）　場所――數學教室（二階）。所要時間――六分。校長御案内。

八、成績品御覽　場所――講堂。所要時間――五分。校長御案内御説明。御覽中御撮影。

九、特殊設備御覽　場所――水泳プール。校園築造の一部。所要時間――二分。校長御案内御説明。

一〇、體操科演習御覽　場所――屋外運動場。所要時間――六分。種目――鐵棒、跳箱、跳躍板。校長御案内。

二、圖工室御覽　場所――圖工室。所要時間――五分。校長御案内御説明。

三、御休憩　場所――御休憩室。所要時間――四分。

三、御撮影　場所――玄關。所要時間――二分。校長御案内。

四、御見送　校長は玄關に向つて左側に於て御見送、奏任官待遇職員及服務將校は學校長の後列に位置し御見送。

其他の職員生徒は正門街路校舍に向つて左側に整列御見送。午前十時三十分御出發。

## 八　言上書

### 沿革及現況説明書

### 一、沿革大要

謹んで學校の沿革及現況に就いて申し上げます。本校は大正十四年の創立でありまして當時本市では向學の氣運が盛んで中學校增設の聲が高かつたのでありましたが現市長板谷宮吉氏校地及建設費を市に寄附せられ玆に本校の設立を見るに至つたのであります。其際　先帝、皇太后兩陛下の御影を越えて昭和六年　今上、皇后兩陛下の御影を下賜せられましたことは



寔に恐懼感激に堪へざるところであります。

### 二、學級及生徒、設備編制の特色

本校生徒の定員は五百名十學級編制でありまして、生徒は市内商家の子弟が多數であります。

設備としては理科實驗室、水泳プール等を完備し、又職員組織に特に意を致し數學英語等生徒學習成績の差著しい學科は能力別の組分とし、一組の人員を少くして生徒學習の便益を圖つて居ります。

### 三、教育方針

生徒教養の方針は教育勅語の御聖旨に則り、時代の趨向と地方の實情とに鑑みまして、

一、劃一教育の弊を避け、自發的學習と勞作の體驗により個性の伸長を期すること。

二、協力親和の生活訓練により感謝奉公の道義的信念を確立すること。

の二點に特に留意し、次の施設を致して居ります。

四、自由研究奬勵、學習實際化

生徒の學習に就いては、自ら研究し創作する態度を養はんが爲め、實驗實習室等學科別の研究室を設け、正課は勿論課外又は休暇中、各自の志望性能により自由研究を奬勵して學習の興味を喚起し、其の成績は談話や展覽會に且册子として發表致させて居ります。又學習をなるべく實際生活に有用ならしめんが爲め、官公衙、公共施設、會社、工場等の校外見學を爲し、又時事問題の解説實務者の課外講話商業實習等により學習を實際化することに努めて居ります。

五、班別自治訓練、家庭連絡、教護委員

生徒の訓育に關しては、内省による精神訓練を重んじ、學校を有機的共同生活體とし各種の行事や生徒間の規律等は、班別編制によつて自治の習慣を養成すると共に、園藝工作等作業を奬勵して勤勞を愛好し創作敢爲の風を助長し且情操の陶冶に資して居ります。

家庭との接密な連絡は本校の特色とも申すべく、通學區域によりて設けられた父母教護委員は、良く學校と協力して生徒校外の教護に任じ、進んで美事善行を爲すの風を馴致致して居ります。

六、體育一般化、保健施設

體育は生徒の健康、體位の向上と訓練的意義を重視し、一部選手に偏せず一般化を目標とし、正科としては夏季はプールに於ける水泳、冬季は附近のスロープに於てスキーを課し、且器械體操を奬勵致して居ります。又一面強行遠足、長距離競走を實施して堅忍剛毅の氣象を養成することに努めて居ります。

尙身體の虛弱な生徒は特別に指導し、身體測定やレントゲン檢査を行ひ各自の體位を自覺せしむると共に、土地柄呼吸器疾患の早期診斷に留意致して居ります。

七、卒　　業

かくて本校は本道唯一の市立中學として、其の校風漸く一般の理解を加へ、創立以來十一年餘、其の間卒業生を出すこと四百九十九名、或は會社銀行に、或は官公吏教職員として旣に實務に從事し、又上級學校に進學せる者も年と共に學窓を出で、社會の中堅として活動せんと致して居ります。

## 二　校務概況書

目　次


○位　　置
○沿　　革
○職　　員
一、職員組織
二、校務運營
三、職員研究
○生　　徒
一、學級編制及生徒數
二、生徒家庭職業
○設備及經營
一、特殊設備
二、本校平面圖
三、經費大綱
○教育方針
○學習指導施設
一、學習の能力別指導
二、自發的學習施設
三、學習の實際化勞作化
○訓育施設
一、訓育指標





二、訓育施設
1　訓育組織
2　國民的精神訓練
3　美事善行調査と個人指導
4　學級自治訓練
5　班別指導と團體訓練
6　作業訓練と環境美化
7　家庭連絡と校外教護
○體育施設
一、體育指標
二、體育運動の一般化合理化
三、體育運動施設
四、保護施設
○卒業生
一、就職狀況
二、進學成績
○結　　語


北海道小樽市中學校校務概況書

### ○　位　　置

本校は小樽市の略々西郊坂本町七番地に位し、市中心地より徒歩約四十分程、閑靜なる教育上惠まれたる環境に在り。

### ○　沿　　革

創立は大正十四年、今を去る十一年前にして、當時本市に中學校增設要望の聲熾烈なるものあり、適々現小樽市長板谷宮吉氏が一万餘坪の敷地と廿万圓の建設費とを市に寄附せられ次いで早川兩三氏より亦職員住宅一千餘坪の寄附あり、玆に中學校入學難多年の懸案初めて解決し、大正十四年二月四日、文部省告示第四十號を以て、小樽市立として本校設置の認可を得同年二月十五日第一學年生徒募集、三月十六日、百六名の入學者を決定し、三月二十一日吉田惟孝學校長に任命せられ、四月八日稻穗小學校に於て入學式を擧行し、翌九日より同校を假校舍として授業を開始せり。

同年六月廿六日校舍新築工事起工、十二月十五日校舍の一部竣工し、直ちに之に移轉、新校舍に於て授業開始、十五年には校舍本館增築、並に屋内運動場、講堂の竣工を見、昭和二年五月廿五日、工事全く完成を遂げ、同年九月十八日校舍落成式

を擧行し、玆に本校は特色ある設備を有する本道唯一の市立中學校として其の第一歩を踏み出したり。

斯くて昭和五年三月三日第一回卒業生を出し、昭和七年三月學校長福井中學校に轉補さるるや、五月五日新に學校長として藤井德三郎横須賀中學校より轉補せられ、昨年九月十八日創立記念日を卜して一万數千圓の寄附金を得て、創立十週年記念式を擧行し、工作室を始め幾多の記念事業を遂行し、更に施設を整備し、本年三月三十一日第七回卒業生を世に送るに至れり。

## ○ 職　員

### 一、職員組織

本校職員は學校長以下二十九名にして、教諭十七名、囑託七名、書記二名、助手、配屬將校、校醫各一名なり。囑託教師中英語科に於ては外人教師を有す。

### 二、校務運營

組織、體系化と簡明化に留意し、一切の校務を合議制とし、其の有機化を圖ることを以て特色とし、教務部、訓育部、作業部、體育部、事務部の五部を置き學校長、教頭統制の下に各部部長部員夫々校務を分掌す。

### 三、職員研究

皇國日本の北海拓殖の途上にある道民の教育者として、其の職責の重大なるを念ひ、確固たる信念の下に恒に人格の修養に努め、敬神尊皇の大義を發揚し、醇厚中正の大道を履み、一意惠心教育報國の熱意を以て子弟の教育薫化に努め、堅く教育の事務化、職業化を相戒め、個人として研鑽躬行の範を垂るるは勿論、組織人として協心戮力綱紀の振肅に努め、教育感化の增大强化を期し、左記職員の修養研究の施設機關を整備して、其の運用を遺憾なからしめんとす。

1 常例打合會　2 各教科打合會　3 各部打合會　4 學年主任及學級主任會　5 研究授業及批評會　6 研究及講習會並に學事視察　7 讀書會

## ○ 生　徒

### 一、學級編制及生徒數

本校は二學級編制にして現在生徒數は第一學年甲組五十二名、乙組五十一名。第二學年甲組五十六名、乙組五十三名。第三



學年甲組四十八名、乙組四十六名。第四學年甲乙各々四十二名。第五學年甲組四十名、乙組四十一名、計四百七十一名なり第四學年以上は之を種別に分ち、第四學年第一種生三十二名、第二種生五十二名、第五學年第一種生三十四名、第二種生四十七名なり。

### 二、生徒家庭職業

本市は專ら商業都市なるを以て、生徒家庭の職業も約四十%は商業なり。次いで會社員、店員等の實務的職業約二十%工業水産業、農業、運送業等の實業約二十%、官公吏、教員等公務的職業約十五%、醫師、僧侶、辯護士等の自由業約五%にして其の生活の程度は一部を除いては概して中流にして子弟教育に關しては熱心なり。

## ○ 設備及經費

### 一、特殊設備

特別教室として理科教室、實驗室、研究室、數學教室、英語教室、工作教室等を有し、其他國漢研究室、地歷實習室、體育室（現在移轉改築中）等あり、夫々特殊の研究設備を整備し、特に理科實驗機械、器具標本類は中學校としては相當充實せる設備を具へ、體育設備としては二十五米水泳プールを有し、其他講堂及附屬設備として職員住宅五棟八戸を有す。

### 二、本校平面圖（別紙添付）

### 三、經費大綱

本校經費は各年度によりて多少の增減あるも大概四万數千圓にして、本年度經費は給料二八、八二〇圓。雜給九、三一八圓備品費一、二四八圓。消耗品費一、六五六圓。雜費一、三九六圓。營繕費一、一〇〇圓。合計四三、五三八圓なり。

## ○ 教育方針

中學校教育の本旨は國體觀念を明徵にし、皇運扶翼の重責を全うすべき健全有爲なる中堅國民の養成に在るを以て、教育に關する勅語の　聖旨を奉體し、中學校令及同施行規則に準據するは勿論、地方の實情に鑑み特に左の三綱を指標とす。

一、眞理と道義とを目標とし生活の理想を確立す。

一、協力親和により學校生活の潤化と向上を期す。

一、自發活動による勞作實行の體驗と研究創造を重んず。

即ち眞理と道義は高き文化人たるの教養の要求にして、生活の理想は之れ國民的信念の確立なり。協力親和は社會人たるの不可缺の要素にして、一面道民的缺陷の匡救と良風美俗、美的情操の涵養とを意圖せるもの、自發活動、勞作教育は主知主義より體驗主義、消極主義より積極主義への理想、研究創造は長き模倣的傳統よりの擺脱、新文化建設への民族的自覺の喚起なり、而して一面堅忍不拔万難を克服して勇往邁進するに足る氣宇雄大、明朗濶達なる身心の鍛錬育成に努めんことを期す。昨秋十週年記念事業の遂行に際し生徒亦左の信條を確立し、之を服膺して其の大成を期せんとす。

一、我等は希望に燃ゆ。心身を鍛錬し、自主創造の人たるを期す。

一、我等は純眞なり。敬愛を本とし、協力一致明朗なる學園を實現す。

一、我等は信念に生く。奉公の誠を致し、報恩感謝の生活を確立す。

今や本校は創立以來茲に十一星霜、第二期充實時代とも云ふべき時期に入り、校風漸次堅實の度を加へ、諸般の施設年と共に整備に向ひ、職員、生徒、父兄、三者一體、協心戮力、理想の實現に向つて邁進しつゝあり。

## ○ 學 習 指 導 施 設

本校の學習指導は前記教育方針に基き學習の能力別指導、自發的學習訓練、學習の實際化、勞作化の三點。

### 一、學習の能力別指導

生徒の能力及個性的差異に留意し、學習成績に個人差の甚しき數學英語等の學科に於ては二學級を三組に別ち、能力別編制とし、第三學年以下は優秀組一、普通組二、第四學年以上は第二種生、優秀組一、普通組一、第一種生組一とし、一組の生徒數を減少し、個別指導に便し、學科によりては劃一教授を避けて班別指導をなし、學習能率の增進を圖る。

### 二、自發的學習施設

1　學習上所謂講義式教授は生徒をして受動的學習態度に陷らしむる弊害あるを以て、生徒をして常に考案實驗せしめ、研究問題の構成、研究方法の指導をなし、自學研究の態度養成に努め、各科の實驗、實習、研究室等を施設して、正課又は正課外の自由研究を指導奬勵し、自發學習の興味を喚起し、個性の伸長を期しつゝあり。



2　長期休暇には各科に於て研究、製作、蒐集等を爲さしめ、其の成果は展覽會を開催し、生徒及父兄に展覽し、優秀なるものは會誌、通信等に掲載し、且つ研究發表會を催す等以て生徒の研究創造心を旺ならしむることに努力す。

3　成績考査は生徒の學力の增進及教師の學習指導方法の反省に資するを主眼とし、平常考査を主とし學習の進度に應じ、適時之を施行し、且つ定期考査は各學期中間及學期末に施行し、考査事項は各學年の要旨に從ひ單に記憶の調査に止まらず理解、推理、應用、等の諸方面の能力の總括的調査及技術熟達の程度を調査し又學校及家庭に於ける作業成績、學習帳、研究報告等をも加へて、單なる一面的考査により生徒の成績を判定するの缺陷の除かんことに留意す。

### 三、學習の實際化、勞作化

1　生徒の學習を空理、空論單なる斷片的、機械的智識の收得に終らしめざる爲め、學習の實際化、勞作化に意を用ひ正課指導の外、校友會學藝部に文藝及各科、書畫園藝、見學の各部を設け、放課後、休暇等を利用し研究調査、實驗實習、製作蒐集、飼育、栽培、見學等を爲さしめ、極力學習を實際化勞作化し、勤勞愛好精神の養成、自發的創造的研究、學習作業の體驗化、趣味化に相當の効果を擧げ居れり。

2　時事及常識教育に意を用ひ、校内各所に掲示板を設け、有益なる記事、ニュース、寫眞、標本、繪畫、研究成績品、ポスター等を掲示し、時事並に常識に關する智識の開發と美的情操の陶冶に資し、購買部を設けて上級第一種生の實務練習に資し、職業講座を設けて校外實務家を招聘し、其の體驗を聽かしめ、或は休暇中實務見學を爲さしむる等を以て實社會を理解せしめんことに努む。

## ○ 訓 育 施 設

### 一、訓 育 指 標

總て教育指導の中心は之を訓育に置き、畏くも御沙汰書に仰せられたる師表たる者の德化　聖旨を奉體し、奉公の至誠を披瀝して實踐躬行以て生徒の儀表となり、之に依り生徒の情意を陶冶し、善良なる習慣を養成し、特に地方青少年の粗野なる傾向に鑑み左の實踐指導に留意す。

1　内省による精神訓練を重んじ自律自治の風を樹立すること。
2　勤勞奉仕の實行により親和協同を樂しむ風を剛致すること。
3　非行の矯正に止らず進んで美事善行を爲すの風を助長すること。
4　處罰によらず實踐指導により習慣の養成を期すること。

## 二、訓　育　施　設

### 1　訓　育　組　織

訓育一般に關しては訓育部に於て立案之が實踐指導の中心となり、學級訓練に關しては學年及學級主任之が中心となり、個人訓練に關しては全職員打つて一丸となりて之に當り、校外訓練は教護分團係教師之が中心となり、訓育部員及父兄と協力して之に當り、全校學年及學級、個人の各訓練の相互聯絡制を緊密にし、校内外の訓練の徹底を期せり。

### 2　國民的精神訓練

國民的情操陶冶に意を用ひ、登校、下校の際は、謹んで奉安所に敬禮をなし、毎朝職員立會の下に週番生徒國旗を掲揚し又毎學期の始終には國旗掲揚、及降下式を嚴肅に行ひ、祝祭日、記念日、及毎週定日の職員精神訓話及生徒の感話をなし或は名士を招聘して課外講演を實施し、更に毎週日を定めて校歌を合唱し、生徒信條を齊唱せしむる等國民的精神を作興すると共に生徒の理想信念に對する自覺の喚起に努む。

### 3　美事善行調査と個人指導

生徒の善事善行を調査し、生徒相互間に於ける性行に留意せしめ、其の中特に推賞すべき行爲は之を冊子に編纂頒布し、道德觀念の向上、心情の陶冶に資し、學習及作業に於ては指導教師は生徒の活動狀態を注視し、善行の認むべき者は之を記錄し、之が賞揚表彰の方法を講ず。

### 4　學級自治訓練

學年及學級主任相協議し、各々學級經營方針を立て學級訓練に努む。各學級には級長及級委員を置き學級自治の主腦たらしめ、且つ學藝、儀禮、體育、美化の各部を設け、學藝部は各科學藝に關する事項儀禮部は禮儀作法及慰弔問、服裝等に



關する事項、體育部は運動保健に關する事項、美化部は整理、整頓、裝飾美化に關する事項を各々自治的に研究計劃して之を實施せしむ。級主任は努めて生徒と接觸し、其内面的生活に觸れ、自治的級風の樹立、規律作法の訓練向上に努力す

### 5　班別指導と團體訓練

各種の作業、運動、遠足、旅行其他學校行事は總て班別制により、班員協同事に當らしめ、各々任務を分擔せしめ、行事の計劃、實施方法を自發的に研究工夫せしめ、能動的精神と規律的行動の習慣養成に努む。實施以來既に數年を經、訓練の成果相當見るべきものあるが如し。

又學級には週番を設け、輪番に勤務せしめ、學級の團體的行動の指揮をなさしめ、全校生徒の規律作法の訓練に關しては上級生徒を全校週番として數名輪番に勤務せしめ校風の發揚に努めしむ。又警備演習、野外教練兵營生活等を實施し、非常時の秩序統制ある團體行動の訓練及剛毅協同の精神鍛錬に資す。

### 6　作業訓練と環境美化

總て作業は作業部之が中心となり、課程外作業の方案を立て全職員協力の下に清掃其他全校作業訓練の統制を圖り、勤勞精神の發揚に努め、班別指導に留意し、作業企劃、整理、整頓、用具管理等に關し、自治的習慣の養成に努め、園藝及書畫、工作等の學習の生活化を圖り環境の美化と美的情操の陶冶に留意す。

### 7　家庭連絡と校外教護

教育の淵源は家庭にあり、實に德育は學校のみにては到底所期の目的を達成するを得ず、故に本校は特に家庭との緊密なる連絡を保たんが爲め、毎學期父母會を開催し、學校の行事及教育方針を父母に周知せしむると共に、生徒各自の學期中の性行、學業成績等に關し、主任と懇談せしめ、指導の對策を講じ、其の際考査成績物及成績通知表を直接父母に交附し時には授業參觀、生徒學藝の發表、製作研究品展覽會等を催して、學校教育の實狀の紹介に努む。

父母會は本校創立以來の傳統にして其の出席率常に殆ど全員に近く、學校家庭の一體化に多大の効果を齎せり。

又毎學期柏葉通信を刊行し、生徒指導の實狀を家庭に熟知徹底せしむる外、定期及必要に應じ、學年及學級主任は生徒の家庭訪問を行ひ、其の生活環境の實狀を調査し、生徒の缺席遲刻、其他の事故に關しては、豫め屆出の電話番號により即

時通話事情を調査し、事故の未然の防止、或は處理を適切に爲し金錢收受に關しては必ず印刷物により浪費及誘惑に陷らざる樣留意す。

教護園は昭和八年二月其の組織を見、全校生徒を通學區域によつて分團に區分し、擔任職員の外、父兄委員を委囑し、相協力して指導に當り、風紀の振肅、餘暇の利用、社會奉仕等社會人としての生活訓練をなさしめ、本校教育の理想の實現に努め相當の實績を收めつゝあり。

## ○ 體育施設

### 一、體育指標

現下の學校體育が往々にして競技中心、一部選手の獨占的運動に偏し、體育の本旨に悖る傾向なしとせず、本校は特に此の點に鑑み、創立以來左の指標の達成に努力しつゝあり。

1 選手勝敗に偏せず、體育の一般化生活化と、禮節訓練に留意し、特に意氣の發揚に努むること。

2 性能に應じ均齊なる發育健康の增進を目標とすること。

3 體位の自覺に基き合理的運動の習慣を養成すること。

4 公衆衛生並に虛弱者取扱に關しては科學的調査及處置に留意し遺憾なきを期すること。

### 二、體育運動の一般化、合理化

1 課外運動を武道部、運動部、球技部の三部に分ち生徒の希望選擇による部員制とし、體育行事は總て全校生徒を參加せしめ、特に每週運動日を定め、全校生徒各部に分れ、統制規律ある運動をなし、且つ全校及學年、學級、教護分團對抗等の校內各種競技會並に試合を催して生徒の志氣を鼓舞激勵すると共に一面日常運動不足なる者に對し、運動の趣味を誘發せしめ、體育運動の一般化に努力す。

2 各種競技會に於ては單なる優勝者のレコードを記錄するに留らず、全校生徒各個人のレコードを記錄發表し、自己の性能、體位の自覺と、記錄向上の自發的努力の資料とし、以て體育運動の生活化、合理化を圖る。

3 對外競技は市內中等學校水泳大會、市民大會、陸上競技大會及全道器械體操選手權大會等に參加し、器械體操は全校的



に優秀なる標準に達し、昨年度神宮競技大會に出場、入賞の榮譽を得たり。

4 體操科は正科に於ては班別指導により、個別的訓練の徹底能率增進に努め、演習時間を設け、課外特別指導をなし、夏期休暇には各種の運動の特別講習及水泳講習は本校プール並に近接海岸に開催し、之が普及と向上に資し、季節運動としては、水泳及スキーを正課に準じて全校生徒に之を課す。

### 三、體育運動施設

1 遠足、學年別遠足、登山、長距離强行遠足、スキー遠足。

2 運動競技、マラソン大會、陸上競技大會、水泳大會、體育大會、スキー競技大會。

3 武道教練、武道大會、野外教練、發火演習、スキー教練。

### 四、保健施設

1 體操科に於て生徒の身體の强弱の程度に應じ、强、中、弱の三班に編制し、班別指導をなす外、每月生徒の身長、體重測定をなし、各自其の增減傾向に留意せしめ、時々診により身體の異狀を發見し、虛弱者には一定期間體溫測定をなさしめ、校醫の內診を受けしむる等、保健指導に留意す。

2 レントゲン早期診斷

本道の氣候的關係より一般に呼吸器疾患比較的多きに顧み特にレントゲン早期診斷を全校生徒に實施し、疾患者は早期治療を爲さしめ之が救濟に留意す。

## ○ 卒業生

### 一、就職狀況

卒業生を出すこと七回、四百九十九名、他に四年終了上級學校入學者二十二名あり。現在第一種生徒には實業を課し、實用算及書道の特別指導をなす外、校外實務家を招聘し、職業講座及公民講座を開設し、又隨時官衙、公共施設、會社、工場等校外見學を實施して、實務指導に意を用ひ、卒業生の就職に就き紹介斡旋を爲す、從つて卒業生の就職年と共に漸次其の志望を達するに至れり。

二、進學成績

正規外囑託職員を設け、正課特別指導を行ふ外、第二種生徒に對しては、正課外特別指導をなし、且つ夏、冬期の休暇には講師を招聘し、受驗講習會を催し、又模擬試驗を實施する等學力の進歩向上に努めつゝあり、爲に上級學校入學率は年につて消長あるも概ね道内他校に比し、相當の成績を示し、昭和八年度より專門學校卒業生を、昨昭和十年よりは大學卒業生を出し、今後年と共に有爲の人材を社會に送らんとしつつある現狀なり。

○結語

以上は本校教育の概況にして、之を要するに本校は學習に於ては自發的學習、學習の實際化、勞作化に力を致し、訓育に於ては自治訓練と作業訓練に重きを置き、體育に於ては體育運動の一般化、合理化に指標を置き、諸般の施設經營は此の目的達成の爲に考究運營し、以て心身共に健全有爲なる皇國民を育成せんと努力しつゝあるの現況なり、

## ホ　我校の概觀目次

――御使献上寫眞帳――


一、本校の全景…奉安所、校舍全景
二、本校の創設…寄附者　板谷宮吉氏　建設當時
三、職員組織…學校長　藤井德三郎氏　職員研究會
四、各科研究設備…數學研究室地歷實習室
五、學習の勞作化…理科實驗　工作實習
六、自由研究の奬勵…研究品展覽　研究發表
七、班別作業訓練…園藝作業　課外作業
記念寫眞撮影箇所
一、體操御覽　二、御玄關
八、團體的訓練…合同教練　體育大會
九、家庭との連絡…父母會の一日　家庭通信
一〇、季節的體育施設…スキー大會　水泳競技
一一、本校の特技…器械體操　前方宙轉
一二、保健施設…レントゲン檢査　早期診斷


編輯　小樽市中學校學藝部職員
撮影　（五年）名倉一郎　（三年）吉能久吉
笠原寫眞館
謹製　太陽舍製本部



記念繪葉書内容

一、聖旨傳達式　二、器械體操御覽　三、博物授業　四、數學演習　五、工作實習

記念活動寫眞内容

○畵題　本校の光榮　甘露寺侍從御臨校　○企劃及構想　本校學藝部高岡教諭　○謹寫及編輯　本校生徒父白岩英二

△タイトル（其の一）光榮に輝く本校　(1)校旗―(2)校舍全景―(3)校門―(4)奉安所―(5)玄關

△タイトル（其の二）濡恩畏し勅使御差遣　(1)父兄控室―(2)生徒堵列―(3)勅使御到着―(4)御着時刻を指す大時計―(5)御正室

△タイトル（其の三）柏葉學園御巡覽　(1)理科教室御巡覽―(2)展覽品御覽―(3)體操御覽―(4)體操演習―(5)本校農園―(6)ブール

△タイトル（其の四）御歸還　(1)御玄關御出發

△タイトル（其の五）仰げ大日章旗　(1)校長訓話―(2)奉安所―(3)日章旗

### 4　理科實驗實習設備狀況

理科實驗設備は左記の通り各教室を順次御覽遊ばされる。

**イ　理科研究室**

〔設備〕　生徒實驗用具、參考圖書、工作用具並に材料、圖表、映寫機、研究製作並に蒐集品、生徒用理科實驗臺、教師用排水口並にガス栓付實驗臺、暗膜裝置。

〔特別展覽〕　日蝕觀測結果の圖表、分食寫眞並に原板、反射望遠鏡による望遠寫眞の實驗、屈折望遠鏡による太陽像投影の實驗。（係生徒　五學年　德光良孝　小林隆一）

本教室に於ては本年六月十九日の日蝕觀測結果の圖表、寫眞並に生徒實驗用具、圖書等と學校長の御説明で御覽遊ばされる。藤原勇教諭は本教室入口に侍立し理科教室内御巡覽に隨行す。

**ロ　暗室**

〔設　備〕眞空管類、電氣メーター類、氣象觀測用具類、電氣配電盤、充電裝置、電池、暗膜裝置。

〔特別展覽〕テスラコイルによる電氣振動實驗裝置並に實驗（係生徒　五學年　笠島市郎　小川祥一）

本室に於ては左記の通り實驗を御覽遊ばされる。

一、高壓、高周波電流より發生する光芒及其の光芒の皮膚刺戟作用

一、感應電流により豆電球の點火

一、眞空管の無極放電

猶本室に整置せる各種眞空管類を御覽に供する。

**ハ　理科器械室**

〔設　備〕各種理科實驗用具を、物理實驗用具は物性、熱、音、光、磁氣、電氣、力學の各部類に化學實驗用具は生徒實驗用と特別實驗用に分類整置す

〔特別展覽〕友田式波動實驗器

本室に於ては以上の理科各部門に分類整置した實驗器具類を御一覽の後友田式波動實驗器による定常法の實驗を御覽に供する。（實驗は藤原勇教諭之を行ふ）

**ニ　理科實驗室**

〔設　備〕生徒用排水口及ガス栓付理科實驗臺及椅子、教師用排水口及ガス栓付理科實驗臺、洗滌用流場、排氣室、生徒化學實驗用具、生徒用試藥及共同試藥、排氣室

〔特別展覽〕一、小樽市内工場分布圖　一、小樽市内工場寫眞　一、小樽市内並に北海道内見學蒐集品

本教室に於て右記化學實驗設備の狀況を御一覽に供し、後市内工場寫眞及工場分布圖と市内並に道内見學蒐集品を御覽遊ばされる。

**ホ　理科準備室**

〔設　備〕排水口及ガス栓付實驗臺、藥品、實驗用器具類、硝子細工臺、電燈



〔特別展覽〕一、ソルベー法による炭酸ソーダ製造裝置及圖表　一、火力發電所模型　一、蒸溜水製造器（係生徒　五年　山田博　家入久記）

本教室に於ては炭酸ソーダ製造實驗並蒸溜水製造實驗を御覽の後、設備の狀況を御一覽に供する。猶本室には櫻田助手侍立して實驗の監督をする。

## 5　工作室實驗實習設備狀況

（後末の工作室平面圖參照）

**イ　工作室に於ける御巡路**

木工室外出入口より御入室、準備室を經て金工室に入らせられ、外出入口より出でらる。

**ロ　各室設備**

（イ）木工室　A　動力機械（三馬力モーター。ベルト掛）

1手押式機械鉋　2注水式研磨機—（當日使用）　3帶鋸機械　4旋盤—（當日使用）

B　生徒共同工具—（當日北窓側生徒材料置戸棚上に整列）

1直角小口臺　2止小口臺　3止枠　4製圖板　5硝子定盤　6絲鋸機　7胴附鋸　8竹挽鋸　9臺直鉋　10溝鉋　11長臺鉋　12丸臺鉋　13反臺鉋　14下端定規　15筋罫引　16四つ目錐　17鼠齒錐　18坪錐　19木螺旋廻　20木鑪（平、半丸）　21釘締　22燒畫器　23膠鍋　24操子　25旗金　26墨壺

C　研場（コンクリート水道附）

1荒砥　2中砥　3仕上砥　4金剛砂砥

D　戸棚　机類

1作業机（四人用万力附）及腰掛　2移動式黑板及小黑板　3生徒材料置戸棚　4共同工具入戸棚　5標本戸棚　6柱時計

（ロ）準備室　A　準備及机腰掛

B 教師用製圖板
C 木製大三角定規及コムパス

（ハ） 金工室 A 取附設備

1金工用爐（送風器附） 2炭箱 3万力臺及取付万力 4鐵砧 5蜂の巣 6木臺 7上下移動式黑板 8教師用机 9素燒樂燒窯

A 生徒共同工具（万力臺及教師用机上に整列）

1カリバス 2金工コムバス 3板金押切 4ペンチ 5ヤットコ 6金切鋏 7半田鏝（斧形、劍形） 8金挽鋸 9木槌 10鐵槌 11鑢（平、三角、甲丸） 12切鏨 13火作箸（丸口、平口） 14モンキーレンチ

## ハ 實習狀況

（イ） 木工 A 旋盤作業

1製作物…机の脚部 2使用木材…楠二寸角 3使用工具…バイト（丸大一、丸小一、平大一、平小一） 荒目ペーパー 4實習生徒…三學年棟徹夫

B 研磨作業

1研磨及物…旋盤用バイト 2使用機械…研磨機 3實習生徒…三學年木村清悟

C 仕上作業

1仕上品…旋盤製作品盆、花鉢臺 2使用具…ペーパー細目。蠟。布 3實習生徒…三學年中谷弘

D 塗工作業

1塗工物…木棚（栓材） 2塗工具…ニス皿。ニス刷毛。四割シケラツクニス。アルコール 3實習生徒…三學年中田修一

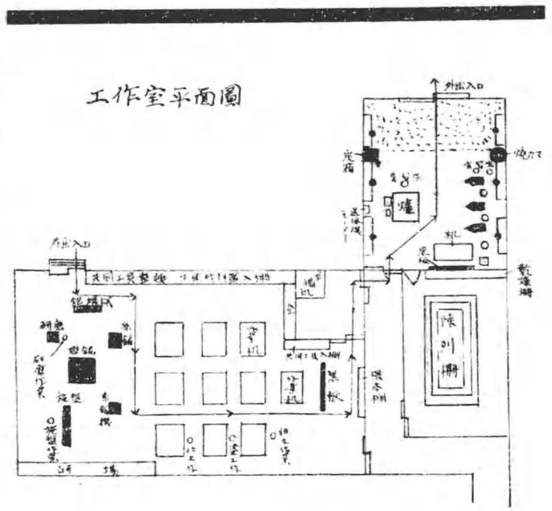
C 組立作業



1組立物…植木鉢カヴァー 2使用工具…木螺子木螺旋廻、四つ目錐 3實習生徒…三學年今堀富雄

（ロ） 金工 D 切出小刀製作

1材料…鐵丸棒長十糎、經一糎 2使用具…金工用鑢（粉炭を用ふ）火作箸 鐵槌、鐵砧、万力、鑢（平） 3實習生徒…三學年三浦仁、金澤正治、小松重夫




## 6 博物授業計劃及狀況

### イ 計劃及狀況

畏くも 聖上陛下に於かせられては、教育御奬勵にいとも御軫念厚くあらせられて此度本道行幸の砌御使を御差遣遊ばされる由の公表があり本校は無上の光榮に浴することゝなつた。博物科に於ては第二學年の植物授業を御覽に供することゝなつて關係職員生徒一同大いにその光榮に感激して緊張裡に御豫定發表の日から着々その準備を進めた。

先づ使用教室である理科教室（階段教室）を充分清め室内の整理美化に特に留意をした。又生徒の言語動作の訓練を行ひ實驗操作の練習に努め、授業豫定に關しては學校長の方針に從ひ日常の授業そのまゝを御覽に入れる樣、模擬授業を排し專ら一般的授業訓練に主眼をおいて一週間二回の割で特別時間割を編成して準備をした。

九月二十五日は嚮導官の來校により、理科各教室陳列及び理科授業の豫行を行つた。猶當日の授業に關する要點を示すと

授業生徒—第二學年A組（約三〇名）　科目—博物科紅葉に關する實驗　教授者—原信教諭　時間—約十分間

本校理科教育方針の主眼點である、生徒實驗と日常生活に關係深い季節的鄕土的材料を選擇して御覽に入れ、實驗は葉綠素、葉黃素、花靑素、カロチンの化學的、物理的實驗を三人乃至四人を一組として九組に分けて行つた。其間二三生徒の質問應答などを含み誠に感激裡に授業を終へた。

**ロ　博物授業者氏名**

小山　道義　上田外次郎　洞ヶ瀨文治　高橋　壯六　高橋　千歲　小林　戍　力石　正三　田澤　茂
寺本　誠　神戸　浩二　太田良弘三　水島　實　庄司　芳雄　鹽谷　宏　石川　豐人　足立　三夫
塚原　正彦　西島　渡　山谷　進　藤井　啓司　加我　清藏　長尾　昌弘　宮腰　秀勝　小畑　幸一
新岡　俊彦　野村　正男　田卷　博　稻垣　益盛　竹內　清　芳谷啓二郎　稻垣　五郎

## 4　數學授業計劃及狀況

**イ　計劃及狀況**

九月五日（土曜）勅使御差遣に關する打合があり、その際數學の御覽授業をなすことに決定した。尙打合後學校長より御覽授業は必ず新教材にして實際の指導の狀況を御覽に入れるやうとの注意があつた。

九月七日（月曜）御覽授業教授事項は計算尺、授業を受くる生徒は第四學年B組（氏名は後に記す）と決定する。第四學年B組を選びたる理由は此組は第二學年より引き續き指導し生徒との氣心もよく合ひ、一方代數教材の進度も對數計算を終り計算尺指導の時期なること及び本校には計算尺指導のため生徒用として逸見式計算尺（no.40）二〇本設備があり、又教師の



指導用として今年七月本道中學校教具展覽會に出品せる渡邊喜美教諭製作の二米計算尺があり、教授用具の完備せること等の理由によるものである。

此の日直ちに生徒計算尺四本（不足分）教師用二米計算尺黑板掛金具及び「カーソル」用硝子を註文した。何れも十五日以前に出來上る。

勅使御差遣前の授業及其他の準備

（一）　勅使御覽の教授事項の決定

計算尺の如何なる教材に御覽を願ふか大いに苦心をした。始める對數の應用としての計算尺原理を生徒自身方眼紙で計算尺を作製することにより、自然と理解せしめる部を御覽を願はんと考へたが、學校長及石栗教諭の指示もあり計算尺の生命とする計算演習を御覽に供することに決定した。

（二）　勅使御差遣前の生徒指導

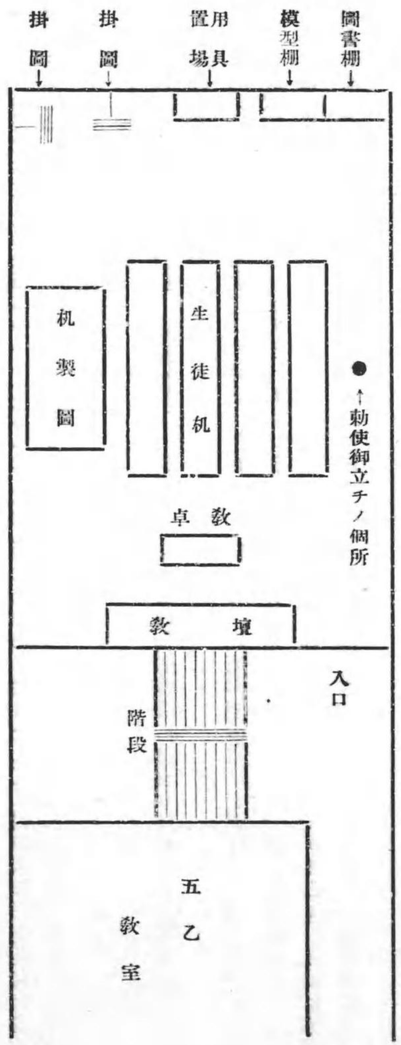
學校備付生徒用計算尺を全部貸與し家庭に於ても練習せしめ、又幾何の時間には必ず持參せしめ指導用別紙プリントにより毎授業時始めの約十分を之が指導に當てた。

九月二十五日（金曜）道廳より勅使の嚮導官、板谷市長一行來校、勅使御差遣當日と同樣の時間で數學科授業を見られるその教材は計算尺原理指導である。九月三十日には校內だけの御差遣當日の豫行がある。當日は數學授業として、プリント第六號計算尺實用の部を教授した。超えて十月に入り勅使御差遣を目前に控へたることであるから、生徒は緊張も一段と加はり計算尺操作に益々熟練の度を加へその程度は實際に使用し得る技倆となつたものと認める。十月二日にプリント第八號を終了した。

（三）　勅使御差遣前の教室淸掃、設備整備狀況

九月二十日、日曜であるが、午前中四B生徒登校、教室床及敎壇をタワシがけして見違へるやうに白くする。九月二十一日からの特別淸掃週間に入つて教室の机を全部タワシがけをし、又硝子も一點の曇なきまでに拭き淸め、又九月三十日までに敎卓は新調され、生徒用机は鉋削りをし塗りかへられた。圖書及模型陳列の下駄箱改良の戶棚は撤去され模型は職員室の

習字用具入戸棚に、圖書は職員圖書の戸棚に秩序正しく整然と入れられ、左圖の如く教室に位置した。又教室入口の掲示板には數學最古の書アーメスパピルスの縮寫及解説、第一種用實用的問題、第二種生には幾何學作圖問題を掲げた。かくして十月三日には總て完了、一度教室に入るや自然に襟を正さねばならぬやうな雰圍氣に包まれた。左はその御覽數學教室の圖である。




—テニスコート側—

(四) 御差遣直前の準備

十月四日(日曜)四B生徒一同午前八時集合、大暴風雨のため教室の雨漏り硝子破損に板の應急手當をなし、教室内を何度となく拭き清め、後明日の教場に於ける態度姿勢、服裝、敬禮、授業道具の机上の整頓方等を注意して解散した。

(五) 勅使御差遣當日の狀況

十月五日、快晴、昨日の大暴風雨も夢のやうに去つた。數學教室の硝子の汚れたのを直ちに生徒と共に清め萬遺憾なきを



期した。

九時四十分勅使御着。十時頃數學教室御成、直ちに勅使の御前に進み約六尺の間隔を置いて最敬禮、生徒一同之に續く。次で教壇に上り計算演習を繼續。勅使には入口から教室の右ブール側中央まで進まれ授業を御覽約五分にして御退場遊ばされた。御覽に入れたのは乘除混合の計算演習の部で

$$\left(\frac{2.1\times1.63\times0.3}{6.8\times18.2}\right)^{4}_{3}$$

の個所である。生徒は此の問題を一分以内に解いた速いものは四十秒で出來た。(ストップウオッチ使用)

答も殆んど〇、二〇九にして位取りを誤つたものは一、二名にすぎなかつた。之について計算尺も算盤と同じく操作の上手、下手が迅速さ、正確さに大變影響があることを話し、教師用二米計算尺を問題赤字の順に動かして、一層の正確さと迅速さを得ることを操作の上で説明して、成る可く乘除を交互になるやうにすべきであることを説明した。

**ロ 御覽授業を受けた生徒氏名**

伊吹 昌美　工藤 三義　小西 俊一　篠田 武彦　高橋美喜雄　田邊 敬一　西 昇士　福 忠男
藤井 一雄　眞島 志郎　松浦 茂夫　宮本 昇　山内 信之　吉川 景三　足立 博司　大橋 昇一
加藤 保照　黒田 登　谷野 初男　中山 章　二木 次雄　山信田圭介　以上二十二名
教授者　教諭　平田 實

## 8 器械體操準備訓練及狀況

**イ 準備訓練**

八月三十一日緊急に部長會議が開かれ、本校に侍從御差遣あらせられる旨學校長から内示があり、直ちに御覽に供し奉る數々の議案中器械體操をも御覽に供することに決定したが、本より未熟なる現在の體操を御覽に供することは、あまりに恐懼の外はないと一時は深く憂慮したが、聖恩の優渥なるに感泣し、この光榮ある責任を果すべく決然生徒の鞭撻にとりかゝつた。先づ計畫を大要左の表の如く定めてその諸準備を進めた。

## 計劃表

| 期 | 週 | 月日 | 曜日 | 演練事項 | 設備事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第一期 | 第一週 | 九月一日 | 火 | 一、各種ノ器械運動ヲ實施シ生徒ノ特技ヲ發見シ特別練習者トシテノ候補者ヲ決定スルコト | |
| | | 九月二日 | 水 | | 一、用具及修繕個所 |
| | | 九月三日 | 木 | 二、健康及性行等ノ人選ヲナスコト | 二、校庭ノ手入 |
| | | 九月四日 | 金 | 三、器械體操ニ必要ナル走躍懸垂等ノ運動ヲ強ク練習スルコト | |
| | | 九月五日 | 土 | 四、運動前後ノ姿勢ヲ嚴ニ習慣ヅケルコト | 三、其他運動ニ關係スル部署ノ調査 |
| | 第二週 | 九月七日 | 月 | 一、候補生徒ノ發表 | |
| | | 九月八日 | 火 | 二、練習ノ仕方 | 一、芝付ノ着手 |
| | | 九月九日 | 水 | | 二、石炭殼ノ敷詰メ |
| | | 九月十日 | 木 | 三、服裝 | |
| | | 九月十一日 | 金 | | 三、鐵棒ノ注文 |
| | | 九月十二日 | 土 | 四、種目ノ選擇研究 | |
| 第二期 | 第一週 | 九月十四日 | 月 | 一、代表練習者ノ決定及種目ノ選定 | 一、プール石段ノ修繕 |
| | | 九月十五日 | 火 | | |
| | | 九月十六日 | 水 | | 二、プール壁ノ塗替及底線ノ塗替 |
| | | 九月十七日 | 木 | 二、特別時間割ヲ設ケテノ練習 | 三、プール周圍ノ柵鐵線ノ張替 |
| | | 九月十八日 | 金 | | |
| | | 九月十九日 | 土 | 三、技術、規律、指導法 | 四、マットノ修繕 |
| | 第三週 | 九月廿一日 | 月 | 一、器具ノ配置ト生徒ノ移動法（屋内運動場及野外運動場） | 一、石炭殼ノ敷詰メ完了 |
| | | 九月廿二日 | 火 | | 二、野外運動場ノ芝付完了 |
| | | 九月廿三日 | 水 | | |



| 期 | 週 | 月日 | 曜日 | 演練事項 | 設備事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第二期 | 第二週 | 九月廿四日 | 木 | | |
| | | 九月廿五日 | 金 | 二、實演ノ公開（全校生徒見學） | |
| | | 九月廿六日 | 土 | | 三、跳箱跳板バスケットコースノ塗替 |
| | | | | | 四、鐵棒ノ取付ケ |
| | 第三週 | 九月廿八日 | 月 | 一、體操服裝ノ調製 | |
| | | 九月廿九日 | 火 | | 一、プール及周圍ノ完成 |
| | | 九月三十日 | 水 | 一、練習完了 | 二、野外運動場ノ完備 |
| | | 十月一日 | 木 | | |
| | | 十月二日 | 金 | | 三、器械用具ノ取付完了 |

全校生徒から選ばれた三十六名の代表生徒は示された種目に向つて火の出るやうな猛練習を開始した。九月十七日特別時間が設けられてからは技術はめきめき向上して第二期の中ばには精練の域に進み、體操用具も整ひ最早最後の仕上といふ所に漕ぎつけた。校庭の整備や生徒の新調服裝は生徒の氣分を引き締めたが、就中新調の移動式鐵棒四臺が校庭にずらりと据付けられた壯觀さは正に體操王國の感がして代表生徒の血を湧かせるにふさはしいものであつた。

### 口 當日の狀況

十月五日、遂に待望の日が來た。此の日昨日の大颱風に引きかへ秋空一碧、御使をお迎へ申し上げるに申分のない好日和になつた。代表生徒は特に登校も早く、白い運動服に身を淨めて配備された鐵棒側に整列、今や遲しと張り詰めた昂奮で御待ち申上げた。

午前十時十五分、講堂の方から御使の御姿が現れるや、不動の姿勢と謹嚴活潑なる敬禮振りは代表生徒の資格を充分に備へてをつた。

次の表に示す樣な種目で

鐵棒之部

跳箱之部

| 回 | 順 | 種目 | 一動 | 二動 | 三動 | 四動 | 五動 | 六動 | 七動 | 八動 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 第一鐵 | 田中白岩 | 蹴上—斜後下—脚懸上—振跳 | 蹴上—巴蹴上—振跳 | 大振—巴—蹴上—振跳 | 蹴上—巴—中抜 | 蹴上—前方宙轉 | 背面懸垂 | 大振—巴—蹴上—巴中抜下リ | 逆上—車輪 |
| | 第二鐵 | 渡谷邊村 | 遠藤佐藤（誠） | 飯塚 | 川内谷 | 高橋 | 金子 | 荒川 | 荒川和井内 | 和井内 |
| | 第三鐵 | 菊吉岡 | 丸田吉田 | 米花 | 佐藤 | 北村 | 山場 | 山本村 | 山本村 | 柳谷 |
| | 第四鐵 | 二木佐野 | 小黒石田 | 本郷 | 大庭 | 原 | 稲葉 | 稲葉原 | 千野松田 | 松田 |

跳躍板之部

| 順 | 種目 | 第一運動 | 第二運動 |
|---|---|---|---|
| | | （臂立前方廻轉） | （側轉廻） |
| | | （水平跳） | （仰向跳） |
| 第一箱 | 一部 | 和井内中野 荒川丸田 山本遠藤 | 山場水野 荒川原 和井内 |
| 第二箱 | 二部 | 佐藤米花 大庭小黒 飯塚佐野 | 白岩吉岡 千野二木 |



| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第一板 | 金子 | 菊 | 中村 | 石田 | 本郷 | 吉田 | 渡邊（英） | 松田 |
| 第二板 | 田中 | 稲葉 | 高橋 | 渡邊 | 川内谷 | 谷村 | 北村 | 柳谷 | 西 |

蹴上り—斜後下—脚懸上—振跳の種目から、四臺の鐵棒が循環式に律動の波に乘つて展開した。續いて跳箱に於ける側轉廻跳躍板の前方宙返り等の技術を數分間息づまる樣な緊張を以て實演を御覽に供したのであるが、御豫定時間五分をお延しになられ十分位御興深けに御覽遊ばされ、眞に感激の外はなかつた。

やがて工作室に御入室になられたので實演を打切つたが代表生徒の緩みなき緊張昂奮は容易に解けようともしない樣子であつた。

思へば九月始め侍從御差遣の内達を受けて以來は、一日として休むことなく練習を積むに練習をし、今日の榮ある日を只管に待望してをつたのであるが、今こゝに爲すべき總てを立派に果しあげたことは、聖恩に對へ奉る至誠の萬分の一として代表生徒と倶に喜悅に堪へない所である。

## 9　新聞社父母等校外關係

### イ　新聞社掲載記事（其ノ一）

御使御差遣の御日取御決定の通知に接して

**聖旨傳達・平安祈念式擧行**

九月二十四日、勅使御差遣の御日取決定の通知に接した此日、午前八時本校講堂に於て全校職員生徒一同相會し、學校長より廣大無邊なる御聖旨の有難さを傳達、同時に此の日あたかも　天皇陛下には宮中御發輦、一路本道へ向はせられたので赤誠をこめた平安祈念式を擧行、尙ほ同日父兄同窓生へもそれ〴〵右の趣きを通達、本校創立以出未曾有の喜びを頒つた。

### ロ　新聞社掲載記事（其ノ二）

## 聖恩極り無し

## 本校へ御使御差遣

御内示を拜受して學校長の謹話

聖上陛下には畏くも、陸軍特別大演習御統監のため、北海道行幸に際し、地方產業の開發、教育御奬勵の御思召から、大演習の前後本道各地に親しく御行幸遊ばさるゝは勿論、侍從御差遣の由、漏れ承はつて我等道民は、聖恩の有難さに感激しつゝあつた折から、はからずも我が小樽市中學校が、小樽市六ヶ所の侍從御差遣箇所の一つに御内定の由を聞かされ、學校長を初め教職員一同は、誠に感佩措く能はず、直ちに奉迎の萬全を期すべく、その準備に取りかゝつたが、藤井學校長は九月十四日の小樽新聞紙上に、學校を代表して大要左の如き謹話を發表された。

謹　話

此度本道に於て行はせらるゝ陸軍特別大演習に際しては、本校生徒も畏くも御親閲の光榮に浴する筈にて欣喜雀躍訓練豫行に精進しつゝある際、重ねて勅使御差遣の御沙汰を拜する事ともなれば、職員生徒一同誠に恐懼感激の至りで、これ偏に教育御奬勵の御聖旨と拜察せられ、有難き極みであります。正式に御沙汰を拜受したる上は、私より直ちに職員生徒に對して聖旨の傳達式を行ふは勿論、學校關係の筋へもそれ〴〵申傳へて、千載一遇の喜びを頒つ心算であります。

扨て勅使御臨校の折は、本校の特殊設備並びにその運用としての生徒の學習狀況、學習の成績品、體操の實演等有りの儘なる學窓生活を御覽を願ふ豫定であります。兎に角勅使御差遣の御儀は、本校としては未曾有の光榮にて、我が學園の歴史に久遠の餘榮を輝かす事故、勅使御迎へ申すに就ては全校を擧げて緊張の度を加へ御準備申し上ぐるは勿論、この好機をして益々御一人の大御心を體し、職員生徒一同打つて一丸となり、相寄り相いましめて愈々學事學業の進展に留意し、以つて聖恩の萬一に酬い奉る決心であります。

### 八　父兄保證人へ

拜啓　今般本道に於ける陸軍特別大演習に當り　聖駕を迎へ奉るは御同樣歡喜此事に有之候加ふるに本校生徒も御親閲の御恩命に浴し全校擧げて萬遺漏なき樣準備に努め居候處圖らずも來る十月五日特に本校に勅使御差遣の趣本日御内定の御達



旨を賜はり候定に本校千載一遇の光榮にして重ね〴〵の畏き思召感激に堪へず時を移さず私より生徒一同に有難き趣を傳へ爾今一層學業は勿論行狀並びに保健衛生に戒心留意し　聖旨に相添ふべき樣訓諭致したる次第に有之候就ては父母保證人各位に於かれても本校と御協力の上此際特に生徒の精進努力を御勵行相煩はし度切望致し候先は本校の光榮を御傳達旁々本校の教養趣旨徹底方につき貴意を得度如斯に候也

昭和十一年九月二十四日

父母保證人殿

北海道小樽市中學校長　藤井德三郎

### 二　教護分團委員へ

拜啓　此度　聖駕を當市に迎へ奉り候事は御同樣至上の盛事に有之候處曩に御通報申上候通り過般本校へ御使御差遣の儀御内示を賜り誠に恐懼感激に不堪次第に御座候

就而光榮を御示の範圍内に於て相成る可く廣く本校關係者諸氏と共に分ち度左記要項御含みの上當日御參集被下度此段申進候也　尙準備の都合も有之御出向の有無十月三日迄に同封葉書にて御申出相成度候

昭和十一年九月三十日

北海道小樽市中學校長　藤井德三郎

記

一、十月五日午前九時本校正門前に參集の事

二、九時四十分御使御着奉迎後運動場にて體操授業陪觀

三、十時三十分御發後、正室、成績品陳列場等參觀の上解散

四、服裝　男子――フロックコート、モーニング又は紋服（服制ある向は規定に依る）

女子――白襟紋服（但し羽織を着用せず）凡て敬意を失せざる樣御注意ありたし

五、小兒御帶同は御遠慮の事

六、當日は有海教諭の誘導に從はれたし

# 七、御親閲豫行部署及當日狀況

## （一）豫　行

御親閲部隊編成に於ける本校の位置は、第六集團第十九大隊第四中隊にして、その人員に就ては、九月十二日再調の上第一次選定を了し、十月二日植田學校醫の健康診斷を經て別項の如く決定を見た。

御親閲拜受豫行に關しては、八月廿九日を最初とし十月六日を最後とする八回を、單獨に本校々庭に於て行ひ、九月十五日及び同二十日の二回に渉り、市内花園公園に於て行はれたる市内御親閲關係諸團體の綜合拜受豫行に參加し、略所期の成果を得た。

## （二）部　署

### 御親閲拜受生徒

〔第五學年級〕木村吉雄　小林隆一　佐治勇三　佐々木晥　竹田與三吉　東山武雄　吹田勝男
山場利孝　山本則幸　分田達哉　鷲澤齊　青木貞雄　伊藤廣一　内田信二　小川祥二
金山定雄　綛谷正　上光清　竹内新一郎　千野光亮　名倉一朗　中西良夫　古川健一郎
宮崎武夫　本家實　吉井宗光　石井平次郎　生駒正隆　織田耕造　奥村泰藏　川合正春
佐藤安雄　篠原弘道　高山圭介　林登　藤川精　三笠實　吉田八郎　青木陞
伊藤慶三　伊藤榮吉　石田二朗　家入久記　五百澤俊郎　小笠原光泰　加納正彦　笠島市郎
佐藤康至　關根武男　對馬照夫　道場七郎　長澤欣一　八田大八　藤尾慶治郎　水野德司
宮下政春　横山健治　山田博　渡邊龍馬　尾形尚
〔第四學年級〕角田厚三　菊地眞　櫛田久雄　佐々木松平　澤田豐彦　四ノ宮孝重　高桑文雄
津山一夫　前田幸一　村谷疆　吉崎博　荒川一男　伊吹昌美　浦谷信雄　緒方正博
工藤三義　佐藤哲司　篠田武彦　清水昌利　白濱芳一　高橋美喜雄　田邊敬一　坪井眞龍



彦井　瓊　福　忠男　藤井一雄　眞島志郎　松浦茂夫　水野芳郎　山内信之　吉川景三
渡邊康男　阿部德太郎　石井龍司　敷中信博　關口滿壽男　曾根國雄　中川源司　中田善悦
中野一雄　萩谷三千夫　發田貞二　山本弘三　和井内仁郎　輪島廣　足立博司　石田善清
岡井清　岡部信一　大橋昇一　加藤保照　北村研一　黑田登　齋藤良　三箇勝男
懲田共司　大道宏三　谷野初男　中山章　西野民雄　松濱春雄　村上弘　山信田圭介
吉野義雄　佐藤俊雄　河原國昭　池田正男
〔第三學年級〕新谷敬三郎　池一秋　石田進一　猪股信雄　大友甚市　大岩實　小野吉實
河原靜　金澤正治　川合吉藏　川内谷榮一　菅野忠昌　鎌田良治　菊潔　木村清悟
小林修　小松重夫　香村英夫　佐藤信夫　上光忠雄　高木德造　堤秀三郎　中川馨
長尾秀夫　原金吉　橋本信一　濱中朗　長谷川泰雄　船木良三　本間敏男　加能正雄
牧野博茂　宮崎清　三ッ野清士　三浦仁　山本恒芳　安田保夫　吉能久吉　吉田光男
横田一郎　渡邊正紀　渡邊英二　鷲澤毅　市橋福哉　泉正敏　今堀富雄　内田源三
遠藤勝敏　北村正之　櫛田久誥　兒玉幸三　齋藤泰正　佐藤勝重　信野愼一　鈴木義雄
瀧澤充　田中美之助　手塚晴夫　棟徹夫　土門佐市　中谷弘　名倉二朗　西江純
畑久昭　早坂政男　東山政時　福田喜穣　藤井佳民　丸田廣之　丸山進　湊和雄
山岸廣保　山崎一男　横尾和夫　吉田一正　吉田武司　木下闊（以上二百四名）
付　添　職　員
〔學校長〕藤井德三郎　〔教諭〕石栗渓　新井豐太郎　山内實　渡邊喜美　〔教諭心得〕渡邊啓藏
部　署
〔指揮者並驛輸送主任〕渡邊啓藏　〔鐵道輸送及休止係〕石栗渓　山内實　〔救護係〕新井豐太郎　渡邊喜美
〔校旗々手〕加納正彦　〔嚮導〕吉井宗光　道場七郎　〔分隊長（救護係兼務）〕千野光亮　綛谷正一　伊吹昌美　新谷敬

三郎　本家實　山内信之　中谷弘　佐治勇三　水野芳郎　長尾秀夫　木村吉雄　關口滿壽男　吉田一正　關根武男　高桑文雄　名倉二郎

（三）當日狀況

十月八日午前零時本校々庭に集合、生徒全員武裝の上整列、學校長の訓辭があつて、直ちに出發、小樽驛に到る。特別列車の三輪に分乘し、同三時三十分發、同四時二十六分桑園驛に着く。指定道路である競馬場傍街道を式場である札幌飛行場に向け、曉闇を衝いて行進をする。冷雨屢々到り、前方野末遙かに、稻妻の閃光を見ること數次。式場前廣場に着く頃、夜は全く明けて、此處で休息の上朝食を攝り、午前七時式場に入場する。我第十九大隊の位置は、玉座を右斜め四十五度に拜する約五百米の地點である。全部隊の入場後、種々の注意事項に就いてアナウンスがあり。終つて午前二回、本式に準ずる全部隊の豫行を行ひ、晝食を攝る。

午後零時四十分、着劍、全員不動の姿勢に入る。數萬の蒼生は茲に闃として聲なく、壯嚴の氣既に場を壓するを覺える。此日朝來暗雲低迷し、加ふるに風が強く、冷雨の襲來すること頻りであつたが、此頃には、漸次暗天に赴き和やかな陽光すら射し出るに到つた。略廿分を經た頃、鹵簿御着、引續き

天皇陛下　には玉座に着御あらせられる。諸員敬禮の後、愈々軍樂隊の奏する行進曲と共に、分列式が開始された。我第十九大隊も他學校生徒と相伍して、在鄕軍人團體に續き、右向け右の後、前進約壹千米にして左向け進め、又約百三十米にして左向け前へ進めで、玉座前二十米の分列進路に入つた。軍樂隊の高鳴る行進譜に、力强き步一步、我等は玉座に近づき奉つた。やがて第一標兵線に差かゝる。「頭右！」の大隊長の號令。忽ち仰ぎ見る高き純白の玉座。おゝ萬乘の

天子　此處に在し、畏くも御擧手の禮を以て我等をみそなはし給ふ。衷心より溢れ出づる感激の胸迫るのを覺えた。行進は早くも第二標兵線を越え、諸員舊位に復して前進、左折又左折、最初位置したる行進路に入り、玉座を左斜め約廿五度に拜する位置に停止して整列をした。續く青年團消防隊の分列もやがて終了し、次に女子部隊による奉唱歌があり。終つて全員の君が代合唱に次ぎ、北海道廳長官の發聲に相和して

天皇陛下萬歲を三唱した。



かくして、御親閲式は滯無く約四十分にして終了を告げ、陛下には、全員敬禮裡に還御の途に着かせられ給ふた。約一時間後、本校諸員一同は式場を退下、往路を逆に桑園驛を通過し、午後五時休止所である桑園小學校に到着、四教室に分れ各自休養をとつた。午後十一時同校を出發、札幌驛に到る。午前零時三十分特別列車で發車、同一時二十七分小樽驛着。又深夜の街路を隊伍肅々本校に歸還した。

事故皆無。全員消えやらぬ感激と歡喜を胸に抱いて、午前三時、各自家路に着いた。

## 八、觀兵式拜觀準備及當日狀況

**觀兵式陪觀の準備**

九月十一日、本校より五十一名に對して觀兵式陪觀を御許しなされる由、學校長より傳へられ。三年級以上の生徒は御親閲を拜受するの光榮に浴することになつて居るので、この光榮者一、二年生より選拔されることになつた。千載一遇の光榮に浴し得ることゝて、その人選に於いても品行方正、學業また優れ、且つ身體の健全なる者を、最も公平なる立場より、との學校長の意により、各學級に於いて選擧し詮衡することになつた。

九月十二日、一、二學年各甲、乙組に於いて、陪觀候補者十二名（連記）を記名で選擧させ、之を詮衡、なほ選擧された生徒の父兄の承諾を得、また體力に自信がなく、万が一にも不敬にあたるやうなことはないやうにと、自ら省みて御遠慮申出た生徒も一、二名あつたが、十九日には、左記生徒が光榮を擔ふことに決定した。

職員　沼田　教諭　　有海　教諭　　内堀　教諭

二甲　野村　正男　　山谷　進　　芳谷啓二郎　　長尾　昌弘　　前田三津男　　白岩　一彦

　　新岡　俊彦　　高橋　幸一　　小畑　幸一　　齋藤　安政　　竹内　清　　中田　清

二乙　小山　道義　　上田外次郎　　石川　豐人　　庄司　芳雄　　寺本　誠　　水谷　常雄

一　甲　神戸　浩二　高橋　千歳　力石　正三　鈴木　邦彦　岩尾　賢一　久保田　譲
　　藤原　優　谷戸　健藏　神崎　義一　小黒　德男　水野　宏　佐藤　正
　　田中　良造　吉田　勇　五十嵐次郎　柴野　道雄　砂山　譲　小川　麻吉
一　乙　絹田　泰光　名倉　三郎　佐野　實　吉岡　稔　中田謙二郎　大庭　博
　　古谷　實　中田　省一　新敷　勇　元谷　武朗　石塚　英夫　菊　亨

選拔された生徒は、以來特に保健に留意し、御親閲拜受豫行練習の時には、その都度、長時間に亘る直立不動の練習をなすなど、常に心身を鍛へ、ひたすらに精進してその日を待つた。

九月十九日、その筋より觀兵式陪觀證の送附があり、二十五日には陪觀者輪送計劃書の送附を受け、こゝに於いて種々打合せの結果、次の如き觀兵式陪觀に關する心得を生徒に配布した。

十月二日、職員生徒は植田校醫により身體檢査を受けて、何れも健全なる自信を得た。左はその「陪觀に關する心得」である。

觀兵式陪觀ニ關スル心得

一、觀兵式陪觀ノ光榮ニ浴スル生徒ハ特ニ保健ニ留意シ、万一事故アリテ光榮ニ浴シ得ザルニ至リタル場合ニハ直チニ申出ヅルコト。

二、服裝　制服制帽、リユツク・サツク、ゲートル

1　敬意ヲ失セザル服裝ヲナスコト。

2　帽子、服ノ破損、釦、ホツク等ノ落ナキコト。

3　ゲートル、靴、共ニ破損セザルモノ、不潔ナルモノハ洗濯シ置クコト。

4　リユツク・サツクハ清潔ニシテ破損ナキモノヲ用フルコト。

三、携帶品

1　辨當三食分（朝、晝、夕、中一食分パン位ニスルモ可）長時間佇立スルヲ以テ油紙、水筒、着代シャツ一、手拭、雨具トシテハ、冬マント（夜間休憩中ノ防寒用トモナル）等、學年氏名ヲ明記シテ、リユツク・サツクニ入レルコト。

2　甘味品、二十錢位、米砂糖、キャラメル、飴玉類。

3　適宜自己ノ使用スル藥品等。

四、輪送



1　十月五日午後九時二十分龍宮神社前集合

2　同午後十時十二分小樽驛發、同十一時三十七分札幌驛着。

3　休憩所—幌北小學校（北十九條西三丁目）

4　入場—午前二時ヨリ五時迄、入口—西南口（南側西方北海タイムス社格納庫入口）退場—觀兵式終了軍隊退場（約二時間ヲ要ス）後指揮ニヨル。

5　歸樽—六日午後六時三十二分札幌驛發、同七時五十三分小樽驛着。

6　乘下車ニ關シテハ引率職員ノ命ニヨリ左ノ要領ニヨル。

（イ）乘降ハ勿論、職員ノ指示ニヨリ勝手ニ腰ヲ掛ケヌコト。

（ロ）リユツク・サツクハ棚ノ上ニ整頓シテ置クコト。

（ハ）列車多數連結シ「ホーム」ニ達セザル場合、特ニ乘降ニ注意スルコト。

出發より入場まで

十月五日、御使奉迎送後、陪觀許可生徒一同、學校長より訓示を受け、午後九時二十分龍宮神社前に集合。各自服裝を整へ、十時十二分、小樽驛發の第一回臨時列車で出發、十一時三十七分、札幌驛に着した。深更なるも不夜城の觀、溢れる人波の中を休憩所にあてられた幌北小學校に赴き、ここで暫時休憩した。午前二時、休憩所を辭して、觀兵式場たる札幌飛行場に入場したが、この時既に場内は闇を埋めて拜觀を待つ各團體に埋もれてゐた。

7　運行中ハ特ニ左記ヲ嚴守スルコト。

（イ）車窓ヨリ手ヲ出サヌヤウニシ、乘降口ニハ出ヌコト。

（ロ）放歌、口笛等ナキヤウ、又、車内公德ヲ重ンジ互讓節制ヲ守ルコト。

（ハ）中間驛停止ノ場合、許可ナクシテハ絶對ニ下車セヌコト。

五、休憩所ニテノ心得

1　訓練アル團體員トシテ他人的行動ヲ愼ミ、校具等ニ手ヲ觸レヌコト。

2　公德ヲ重ンジテ所内ノ靜肅、清掃ヲ保ツコト。

3　火氣ハ一切取扱ハズ、採暖、設備ノ故ニ風邪ナド引カヌヤウ注意スルコト。

4　事故ヲ生ジタル時ハ直チニ職員ニ報告スルコト。

5　退散ノ時ハ室内ヲ整理シ、人員點呼ヲ受クルコト。

**觀兵式陪觀**

大平原の涼風に冴えた星の、かげ薄れ行く彼方、東雲の空に、日章旗さながらにさし昇る太陽、空にも地にも、黄金の光漲り、世をあげてこの佳き日を喜び奉る氣色。響き渡る喇叭の音に、入場する兵列、また兵列、やがて天空高く禮砲轟き、嚴かなる國歌奏樂のうちに、天皇陛下御臨御遊ばされる。整列した兵も馬も微動だにしない。御愛馬白雪號に召されて、御閲兵遊ばされる陛下の御英姿を拜し奉り、陪觀者は等しく一つの神秘靈感に打たれる。

九時五十分　天皇陛下には、拜觀者に御會釋を賜はらせつゝ御還御遊ばされる。

**退場後より歸樽**

十時頃より先づ兵の退場始まり、凡そ一時間後にして、一同は感激に頰は熱ばめて休憩所に歸つた。午後五時迄市内を見學、六時三十二分の臨時列車で歸樽した。一同は殆ど一睡もなく夜を徹しての行動ではあつたが、一人の疾病者もなく、何れも元氣に緊張と興奮とのうちに、心ゆくばかりこの光榮に浴することの出來たことは、一同の深く感激してやまない次第である。

## 九、奉迎送豫行及當日狀況

### イ　奉迎送豫行

十月七日、奉迎送豫行　午前八時、全校職員生徒、淺草寺前に集合、列を整へて高商坂所定奉迎位置に着いた。此の日は全市の團體堵列者が集つたのであるが、實地位置について見ると机上の計劃にはやゝ無理があつたと見え、多少の變更があり、結局本校は第二十區、廳立商業學校入口附近、高商に向つて左側に堵列して奉迎申上げることになつた。

定刻、指導官の車が見えて、全團體順次に目迎送の禮を終へ、高商巡視後、歸路を待つて再び奉拜。午前十一時豫定通り滞了。かくていよ〳〵來る十月九日、千載一遇の行幸當日を御待ち申すことになつた。

### ロ　奉迎、奉送の狀況



十月九日、午前七時三十分、全校職員生徒四百八十名は淺草寺前に集合。別に學校長及び石栗、新井、山内の諸教諭は有資格者として本日の列立拜謁の榮に浴し、市公會堂に參集した。

七時四十分、集合地を出發して、高商坂指定區に向つた。戸々翩翩と飜る日章旗は此の日我等の至尊をお迎へ奉る十五万市民の心からの歡迎の表徵である。仁風街衢に流れて山川又光輝ありともいふべく、輦路は肅然と整理され、朝氣の清々しさの中に自ら敬虔な或るものが漂つてゐるのを感ずる。

小學生、女學生、各男子中等學校生徒を始めとして、青年團、女子青年團、其の他の社會團體は早くも各自の位置について、時の來るのをお待ち申上げる。垂向の叟、舍哺の民、あまねき雨露の惠みに感仰するの蒼生は此の日をおいて再び至尊を拜するの日はあるまい。老を扶け幼を携へ、來りて、一般奉拜者席につき、鳳輦を奉迎申上げようとしてゐる。

嗚呼我等何等の榮ぞ、本日こゝに龍駕を迎へ畏くも天顏を咫尺の間に拜する事を得るのである。實に終身の大幸、欣喜感佩、これに過ぐるものはない。

十時三十分　聖駕小樽驛御安着を知らせる汽笛、煙火が全市の空に響き渡つて、奉拜堵列の民草は一樣に列を正し、容を改めた。御車は今や驛前も出發せられて公會堂に向はせられたであらう。間もなく高商御成りへの御車を進めさせられることであらう。洒掃の人夫が改めて箒目を正して行く。各係員は區毎に巡視しつゝ、行き屆いた奉拜の注意をして廻る。

十分、五分、三分、時間は迫る。「氣を付け」遙かの下の方に小學生指揮者の號令が聞えて、順次に號令は近寄つて來る。全く水を打つた樣な靜けさ。

渡邊教官の「氣をつけ」「最敬禮」「直れ」の號令がかゝる。靜かに面を起して目迎し奉る。自づと湧く胸の高鳴り、心の震ひは何うすることも出來ない。今こそ仰ぎ見る鳳輦。畏くも　陛下には指揮者に對して擧手の禮を賜はる。あゝその威容、流れ行く御車を目送し奉る中にも早や兩眼をぬらすは感激の涙である。

去る九月二十六日、室蘭港御着以來、全寸時の間暇もあらせられず、御巡視に御統監に、日も是れ足らぬ御繁忙、文字通り櫛風沐雨の中を御奔走あらせられたのにも拘らず、何の御疲れ等も見えさせられず　凛乎たる中にも温情をたゝへ給はら

れたその玉容、大君は神にし在せば人力ならぬ御寄力を秘めさせらるゝとは知り乍らも、猶又日頃の御鍛錬、御修養の程が偲ばれて畏しとも畏き極みである。御上陸以來、玉體御恙なき事を神かけて祈つた我等、今こそ胸撫で下ろせ、　陛下にはいとも御機嫌麗はしく高商への玉歩を進められたのである。

親しく行幸をお迎へ申上げた高商では、實踐授業、生徒成績及天覽等の光榮であるプログラムの後、同校獨技の劍道野試合を天覽に供する筈とか承る。左右紅白に別れた數十の劍士が親しく其の御前に、日頃の武技を遺憾なく發揮し得るの光榮は如何ばかりであらう。兩軍の喚聲がきこえ、やがて　天皇陛下萬歳の唱和が微に洩れて來た。野試合は終了したらしい、御還幸も間も無いことであらう。

午前十一時十分、御還幸の前驅が校門を折れて下つて來る。堵列席は再び緊張が漲る。我等の目迎目送を受けせられ給ひつゝ靜かに辷り行く御車の御姿は緣町通りの市街に消え去つた。ホッとつく溜息。一生一代の光榮を沁々と身に感じつゝ私達は暫らくは無言であつた。

本日の御日程は、是より製罐會社に御成り、再び公會堂に引きかへさせ給ひて御小憩の後、午後二時三十分、御召艦比叡に御乘艦遊ばされて一路函館に御發向との事である。

私達は潮見臺の臺地に於て御發艦を奉送申上げる筈で、全團體は隊伍を整へ、手に手に國旗を打振り、奉迎歌を歌ひ乍ら臺地に向つた。臺地所定の位置に整列して待つ事約一時間。灣内風穏やかに、增毛、留萌の諸山翠黛を空に描き、海風涼しく爽氣は私達の襟を浸して來る。

御發向の時近づくや、水天宮に備へられた煙火は續けざまに打揚げられ、緣煙、黄煙、黑煙、紅煙、爆烈又爆烈。艦上比叡からは、二十一發の皇禮砲が發射されて殷々山谷に山彦、全市は一瞬に奉送氣と化した。感激に滿ちた奉迎歌が聽齒の音樂隊の奏すのに和して一際男ましく艦に屆けと歌はれる。熱狂した全團體の合唱である。此の時、海岸といふ海岸には熱誠をこめた市民によつて埋められたのである。

午後二時三十分御拔錨。あゝ遂に我が比叡は緩やかな推進機の回轉を開始して徐ろに艦體を前進せしめた。



防波堤を後にして無言に辷り行く比叡の雄姿、檣頭高く飜る天皇旗を見送り、聲を限りに奉迎歌を唱ふ學生、市民、幸路期ありて鳳輦遂に留め難く、艦影漸く小。落日又西山に近づかんとする午後四時、一同臺地に解散して奉迎送の行事を終へた。

## 十、行在所拜觀狀況

### イ、大本營御跡拜觀

畏くも聖駕を本道に御奉迎申上げて以來學校長の旭川師範學校天覽體操陪觀札幌に於ける天機奉伺或は一二年生徒の輝く大觀兵式陪觀三四五年生徒の御親閲拜受等の光榮を擔ひ且つは當市に御成りの際は龍顔に咫尺し奉り皇恩の厚きに咽び、わけて本校へ御使御差遣の光榮を辱うし、今や感激に次ぐに感激光榮に次ぐに光榮に浸りながら、十月十一日生徒約二百名は學校長を初め職員五名引率の下に大本營御跡拜觀のため九時十五分札幌に向つて出發した。

車窓より眺めた沿線一帶は非常に整頓され、　陛下を御迎へ奉つた道民の赤誠が明かに現れてをり、　殊に農事試驗場の如きは陛下の御幸を仰ぎ奉つただけに、その緊張せる樣子は隈なく清拭された跡によつても充分伺はれた。やがて札幌へ着いてから直ぐ大本營の御跡である北大農學部に向つた。秋空清く澄み渡つた朝の光が學園の木立に照り映えて奥床しい。芝生は絨毯を敷き詰めたやうに綺麗に刈りとられ、道路は整然と區分され、彼所向ふには近代建築の粹を集めた。農學部の建物が巍然として聳えて、何處となく尊嚴な氣分が漲つておのづと襟を正さずには居られないやうな氣持になつた。農學部の左の入口より階段を登り、いよいよ御跡を拜觀することになつたのであるが、先づ陛下の侍從武官や供奉官の御休息室や其他の室が白い壁の廊下を中央にして左右に列んでゐる所を通り、次いで謁見室御座所、御寢室、御統監室等を拜觀した。御机や御椅子や其の外すべてが殊の外に簡素に拜せられ、陛下の御日常が如何に御質素であらせられるかを拜察して「軍人は質素を旨とすべし」の軍人勅諭を如實に執り行はせられ、國民に範を垂れ給ふ大御心に感泣せずには居られなかつた一通りの拜觀を濟ましてから構内の路筋で校長先生から生徒一同に對し拜觀した個所についての御説明があり、後中島公園にある國防博覽會見學に參つた。

### ロ、公會堂高商御座所拜觀

十月十日午後本校全生徒は職員引率の下に御座所拜觀のため小樽市公會堂、並に小樽高等商業學校に出向いた。

此の日天候に惠まれ拜觀者の足も繁く、どの人も服裝に氣を付け、靜肅の氣持で歩いてゐるやうに感じた。生徒一同は公會堂玄關前に整列し、市役所の土居助役から、行幸當日への御次第を詳しく聞き、殊に御劍、御靈の奉安に關するお話には啓發される所が多かつた。此の有意義なお話しが終ると、五年生から順に拜觀した。

當日使用された各部屋は全部外から拜觀出來るやうに、戸、窓、障子等取はずされてあつた。

先づ玄關の次に列立拜謁室があり、正面に教壇のやうに高く作られ白布が敷かれてあつた。此の部屋を右手に中庭に廻つて單獨拜謁室、御座所を拜觀したが何とはなしに一種の緊張味が知らず識らずに胸にこみ上つて來るのであつた。御部屋の內部は割合に質素で白布やうのものが敷かれてあつて御道具は片付けられてあつた。

公會堂を拜觀した一同は更に高等商業學校に行つた。此處は一層拜觀者の數が多いやうであつた。生徒一同は手入された芝生の上に整列し、卜部教授から丁寧に當日の模樣を聽き、　陛下の御到着から御歸還遊ばされるまでの御經過を縷々話されし、御說明の熱心に一同は時の過ぎるのを忘れる程であつた。

始めに拜觀したのは高商獨特の商業實踐室で、流石に注意を引かれ、此處を出ると商用文書面が和文、外國文など書かれたものが陳列されてあり、階上の講堂は展覽室に當てられて、生徒の研究物、圖表、各教授の著述參考書等が順序よく並べてあり、更に本館二階に上つて單獨拜謁室、列立拜謁室及劍道の野試合を御覽遊ばされたバルコニー、續いて扈從室等を次々に拜觀し一通を終へたのであるが今更ながら　聖恩の鴻大無窮なのに目頭の熱くなるのを覺えるのであつた。

## 十一、學校長職員拜謁並に伺候

學校長天機奉伺

十月二日　學校長は此の度の陸軍特別大演習御統監のための行幸の奉迎と侍從御差遣御內示の御禮の爲め大本營に伺候し天



機を御伺ひ奉つた。

十月六日　十月五日御使御差遣御沙汰を蒙り諸事滯り無く終了せしに付御禮の爲め再び大本營に伺候し天機を奉伺し奉り心より御禮を言上し奉り益々國家教育のため精進し聖慮に應へ奉らんことを誓はれた。

學校長職員拜謁

烟火一發一碧の秋空高く轟き渡つた。御召列車は方に小樽市に入らんとしてをる。時は十月九日午前十時十五分。百八十八名の列立拜謁者は頓に緊張を加へる。陛下には此度の小樽市行幸に際し御仁慈を垂れさせ給へ、畏くも公園公會堂まで御出ましになり、百八十八名の者に拜謁を賜つたのである。九時半の定刻までに公會堂東側の大廣間拜謁室に集合した。本校より

は學校長外、石栗、新井、山內、三教諭がこの光榮に浴したのである。早朝齋戒沐浴して身と心とを淨めて公會堂に出向した。公園は隅々に至るまで淸められ、道に靴の跡の殘るのも心にかゝる程である。受付で姓名を照し靜かに室に入れば室內は塵一つ見えざる淸淨で前方の白布で覆はれた玉座を拜した瞬間頭の垂れるのを覺えた。我々は位階勳等順に列び拜謁の豫行も完了した。十時二十分小樽市御着である。もう間もなくである。咳聲私語一つする者もない。否微動だにする者がない。玄關前に護衞兵一隊は整列した。又五人の單獨拜謁者も列んだ。十時二十八分着御遊ばされた。

自動車の音、人の氣色、併し到底頭を向けて雨戸越しに拜することなどは出來ない只陛下の御盛德と神明の御惠と感泣してをるのみである。間もなく期々たる音聲が洩れる。多分單獨拜謁者の拜謁が終り市長の市政奏上なのであらう。もう間もなくである。我々は再び姿勢を正し心靜かに神に念じつゝ一生一代の光榮の時を御待ちしてをる。入御遊ばされた。息もつき得ない緊張。陛下は玉座に御起立遊ばされた列立拜謁の代表者正五位勳四等判事近幹之助はしづしづ玉座の御前に進まれた一同は熱誠溢るゝ最敬禮をなす　完全なる眞善美聖の大御心の表れたる崇高なる龍顏を目のあたり拜し奉り未だ曾て經驗することの出來なかつた莊嚴の感に打れたのであつた。

陛下には御會釋を賜ひ侍從の御先導にて出御遊ばされた。一同直ちに玄關前に出で整列する。

陛下には市長の御先導にて玄關に御出でましになられた。直ちに御召自動車に御乘り遊ばされた。侍從大臣供御の隨員は夫々後に續く一同心から御盛德に感謝しながら最敬禮をした。突然護衞の兵の退去の號令を耳にしてやつと我に返つたのであ

る。この光榮、この歡喜、その感激に躍り上りたい氣持ちが湧き上る。
一同心の中で力一杯「天皇陛下萬歳」と叫んだのであつた。

## 十二、記念施設に關する件

### イ 記念行事

凡そ記念施設なるものには、平常時行ひ得るものに特に記念の文字を冠したるもの、或は年月の經過するや當初の物質的形骸のみを存するに過ぎざるに到るものが、世上尠しとしない。

今次の　行幸記念行事を設けるに當り、本校は茲に鑑る所があり、職員生徒の衆議を聚めて中より靜座默想を選び、記念行事とするに決定した。

之が準備として、十二月下旬職員一同、石田義道氏より指導を受け、昭和十二年一月初より生徒全員への實施に入つた。

方法は毎月日曜日第一時限に講堂又教室に於て精神講話の後に施行する。

### ロ 記念日

御使御差遣記念日

十月五日本校へ　御使の御差遣を賜り其の光榮を永久に記念するため昭和十二年以降當日を卜し御使御差遣記念式を擧行する。

式次第

一、修禮
一、宮城遙拜
一、國歌二唱
一、學校長誨告



一、記念校歌
一、修禮

尙當日（或は其の近日）記念映畫を映寫し光榮を偲ぶと共に、聖慮の万分の一に應へ奉る覺悟を新にするのである。

## 十三、附圖

イ　大演習陪觀者位置要圖
ロ　御親閲位置要圖
ハ　單獨拜謁者參退路圖、
ニ　御使の御巡路圖

昭和十二年八月二十日印刷
昭和十二年八月三十日發行

北海道小樽市中學校內
編輯人兼發行人　沼田脩二

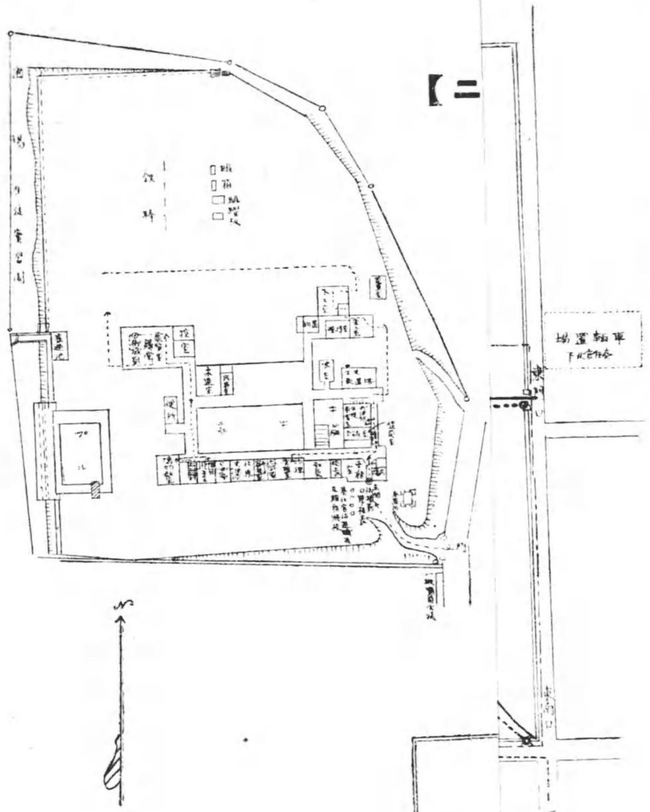
小樽市稻穗町東六ノ四
印刷人　尾關十郎

小樽市稻穗町東六ノ四
印刷所　株式會社太陽舍印刷所

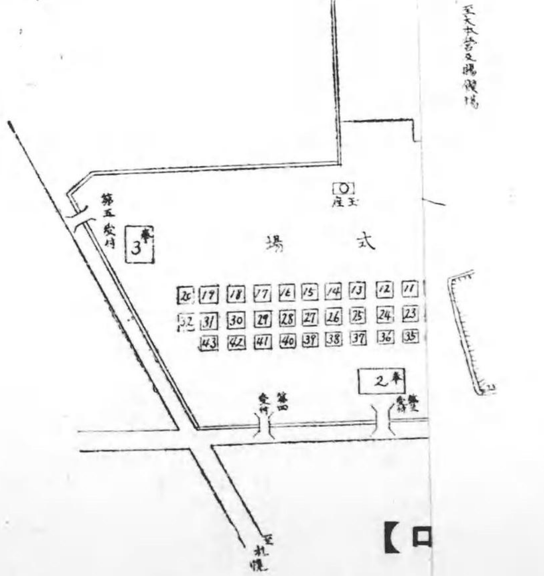
發行所　小樽市中學校

〔イ〕大演習陪觀者位置要圖　〔ロ〕御親閲位置要圖　〔ハ〕單獨拜謁者參退路圖　〔ニ〕御使の御巡路圖

【ニ】




【ロ】



【イ】




【ロ】




【ハ】



〔イ〕大演習陪觀者位置要圖

〔ロ〕御親閲位置要圖

〔ハ〕單獨拜謁者參退路圖

〔ニ〕御使の御巡路圖

終